

中国山地のバックカントリースキールート図

『バックカントリースキー（スノーボード）の楽しみ（五訂版）』（2015.11.18）付録

2015.12.3

広島県高体連登山専門部 西部伸也

このルート図は、『バックカントリースキー（スノーボード）の楽しみ（五訂版）』（2015.11.18）（以下『バックカントリーの楽しみ』と略記）で紹介した広島県のほぼ全域と山口・島根・岡山・鳥取（・兵庫）県の主なバックカントリー適地のルート図です。

各ルートのラインは、林道を利用する区間を除いては、おおよそのラインであって、必ずしもラインどおりにトレースしなければならないというものではありません。登りやすいライン、滑りやすいラインを各自が現地で判断してください。

『バックカントリーの楽しみ』中のコース紹介でも記しましたが、各コースの所要時間の目安をつけておきます。もちろん、積雪状況や各人の体力等によって所要時間が変わるの言うまでもありません。

各山城位置図



(縮尺 約 1/3, 000, 000)

- | | |
|---------------------|------------------|
| ① 十種ヶ峰 | ⑮ 三瓶山 |
| ② 羅漢山・法華山 | ⑯ 大万木山 |
| ③ 右谷山・錦岳・寂地山 | ⑰ 吾妻山・比婆山連峰 |
| ④ 鬼ヶ城山・冠高原・冠山 | ⑱ 道後山 |
| ⑤ もみのき森林公園（小室井山） | ⑲ 花見山 |
| ⑥ 恐羅漢山・十方山 | ⑳ 金ヶ谷山・朝鍋鷲ヶ山・三平山 |
| ⑦ 深入山 | ㉑ 蒜山 |
| ⑧ 臥龍山・掛頭山 | ㉒ 鏡ヶ成・鳥ヶ山 |
| ⑨ 大佐山 | ㉓ 大山 |
| ⑩ 雲月山 | ㉔ 野田ヶ山 |
| ⑪ 阿佐山山塊（阿佐山・天狗石山・他） | ㉕ 恩原高原・三国山 |
| ⑫ 寒曳山 | ㉖ 那岐山 |
| ⑬ 芸北文化ランド（板尾山） | ㉗ 氷ノ山 |
| ⑭ 龍頭山 | ㉘ 扇ノ山 |

1. 十種ヶ峰



リフト終点の標高 680m より上もゲレンデとして圧雪されているので、ゲレンデの端を登っていけばよい。ただし、出だしの林道が大きくカーブするところはショートカットできる。また、ゲレンデの最上部（900 m 付近）からは、南西方向に少しトラバースしたのち登山道沿いに登って行くのがよいだろう。

降りも登ったルートで滑降すればよい。なお、上部ゲレンデは圧雪されたコースの脇に非圧雪の斜面が幅広くあるので、そこを滑降するほうがバックカントリーとしては楽しい。

リフト終点～山頂は、登り 1 時間、降り 15 分程度。

2. 羅漢山・法華山



(縮尺 約1/20,000)

羅漢山は山頂北側の電波塔下(950m)から取りつけば簡単。電波塔へと上がる車道は除雪されていないが、入口に2台くらいは駐車可能。登り40分・降り15分くらい。登山道は丸太を横木にした階段となっているが、積雪が40~50cmくらいあり、階段の段差が埋まっていればスキーでも問題はない。階段が厳しいようであれば、樹林(下部は植林地)の間を縫って行けばいい。

西側の羅漢高原からのルートは未踏査であるが、北側ルートの倍くらいの時間で可能と思われる。

ずいぶんと昔(10数年前の佐伯高校勤務時代)、中腹に大きな岩のある東側からのルートをスキー登山したことがあるが、山頂近くはブッシュで難儀した記憶がある。(冬の通勤時、廿日市沿岸部から明石峠を越して旧佐伯町内に入ると、西方の白い三角のピークが印象的ではあったのだが...)

法華山は下部が元スキー場であったので、すこぶる快適だ。元スキー場の最上部(830mあたり)からも登山道が続いており、スキーで登下降できる。ただ、下部の元ゲレンデは10~20cm程度の積雪でも楽しめるが、法華山への登りの急斜面は30cm以上の積雪がないと厳しい。所要時間は、羅漢山北側ルートとほぼ同じで、登り40分・降り15分くらい。

3. 右谷山・錦岳

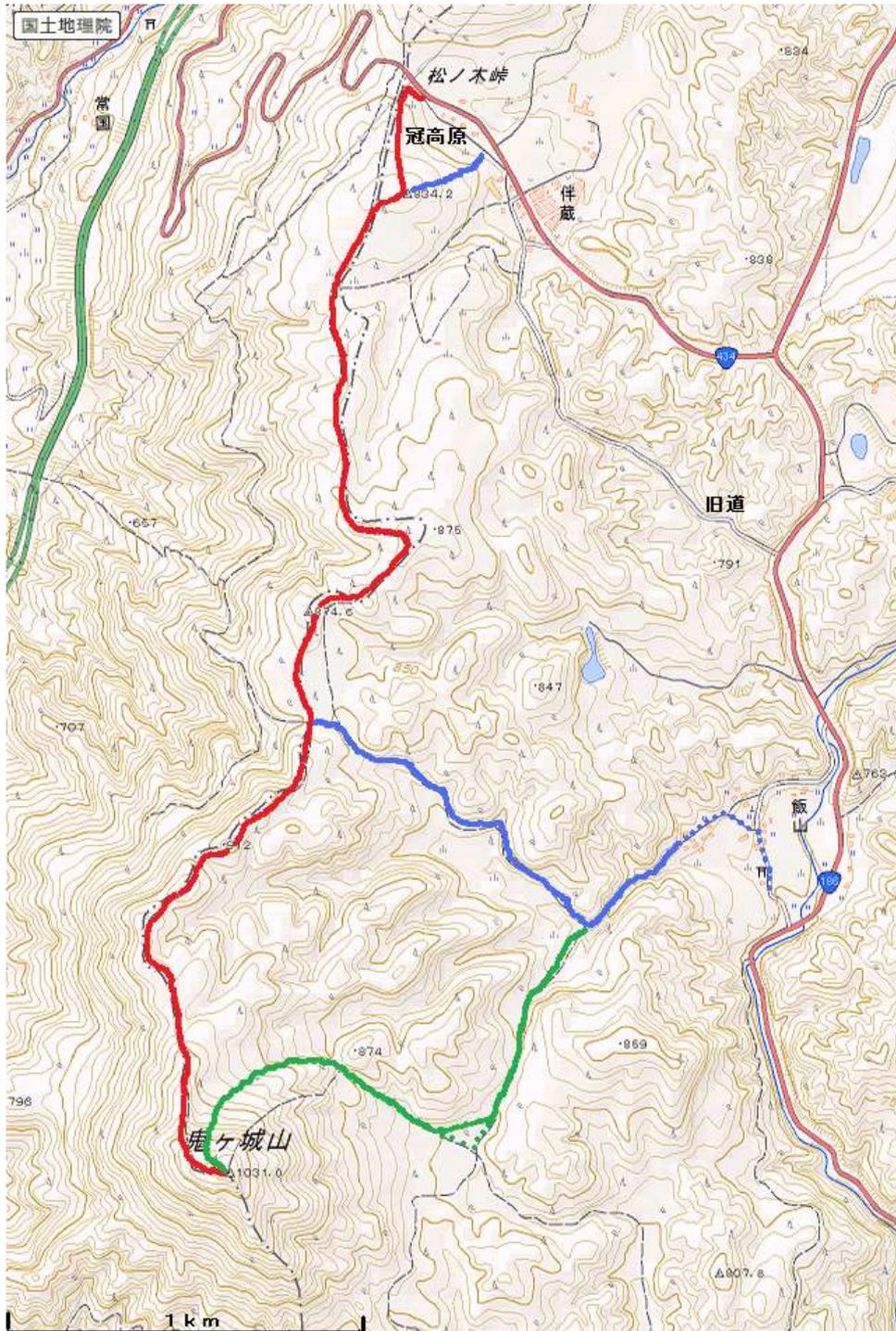


(縮尺 約1/25,000)

麓の標高は低いので、適期は3月中旬までか。(林道に雪がなければ車で入ることも可能だろうが。) 錦岳往復は、登り4~5時間・降り2~2.5時間の7時間前後。寂地山まで足を延ばすなら、10時間前後の超ロングコース。(なお、青点線はスキーには不向き。)

寂地山は犬戻峡から取りついてもよさそうだが、こちらはまだ未踏査。

4-1. 冠高原・鬼ヶ城山



(縮尺 約1/20,000)

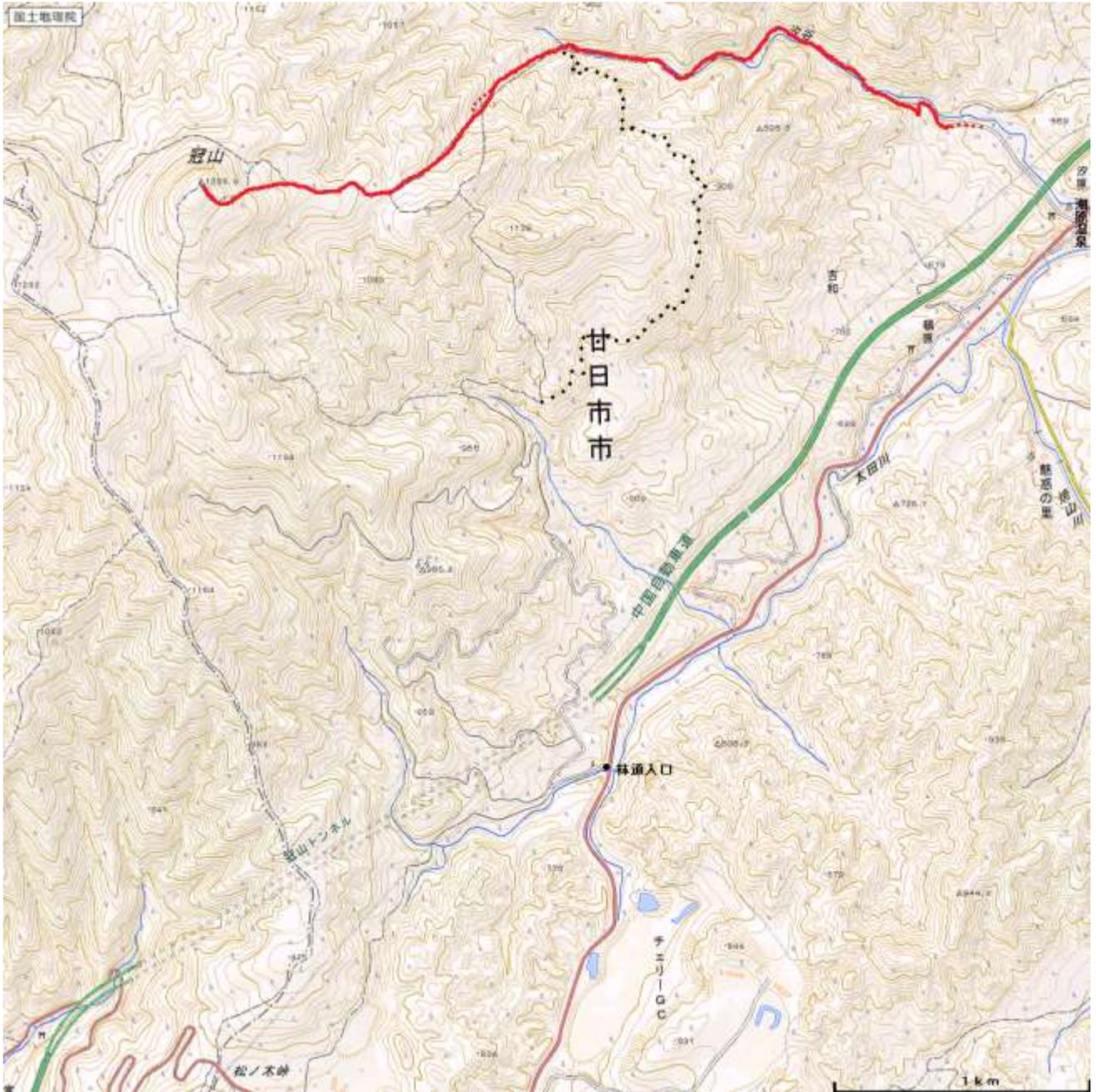
冠高原は834ピークから北方向あるいは東方向が主なラインだが、どこをトレースしてもよい。

冠高原～鬼ヶ城山はとても趣のあるコースだ。834ピーク南西の開けた雪原や974ピーク南の広く緩やかな鞍部など。所要時間は登り約2.5時間・降り約1.5時間の往復4時間程度。ステップ付きの板もよい。834ピークからは西方向に切り開きがあるので、それをたどれば広い雪原に出る。あとはほぼ尾根通しに進めばよい。

飯山～鬼ヶ城山のコースも楽しめる。所要時間は、登り約2時間・降り約1時間。林道分岐を右折して(青色)鞍部で冠高原方面からのルートと合流してもいいが、左側(南側)の緑ルートのほうが速いだろう。

さらには、冠高原～鬼ヶ城山～飯山～冠高原と周遊するコースも考えられる。飯山からは国道を500mほど北上し、除雪されていない旧道に入るとよい。一周約5時間。時間がないときは974南の鞍部から飯山へ降ることもできるが、夏道は谷の北東寄りに付いているのでそれをうまく見つける必要がある。

4-2. 冠山

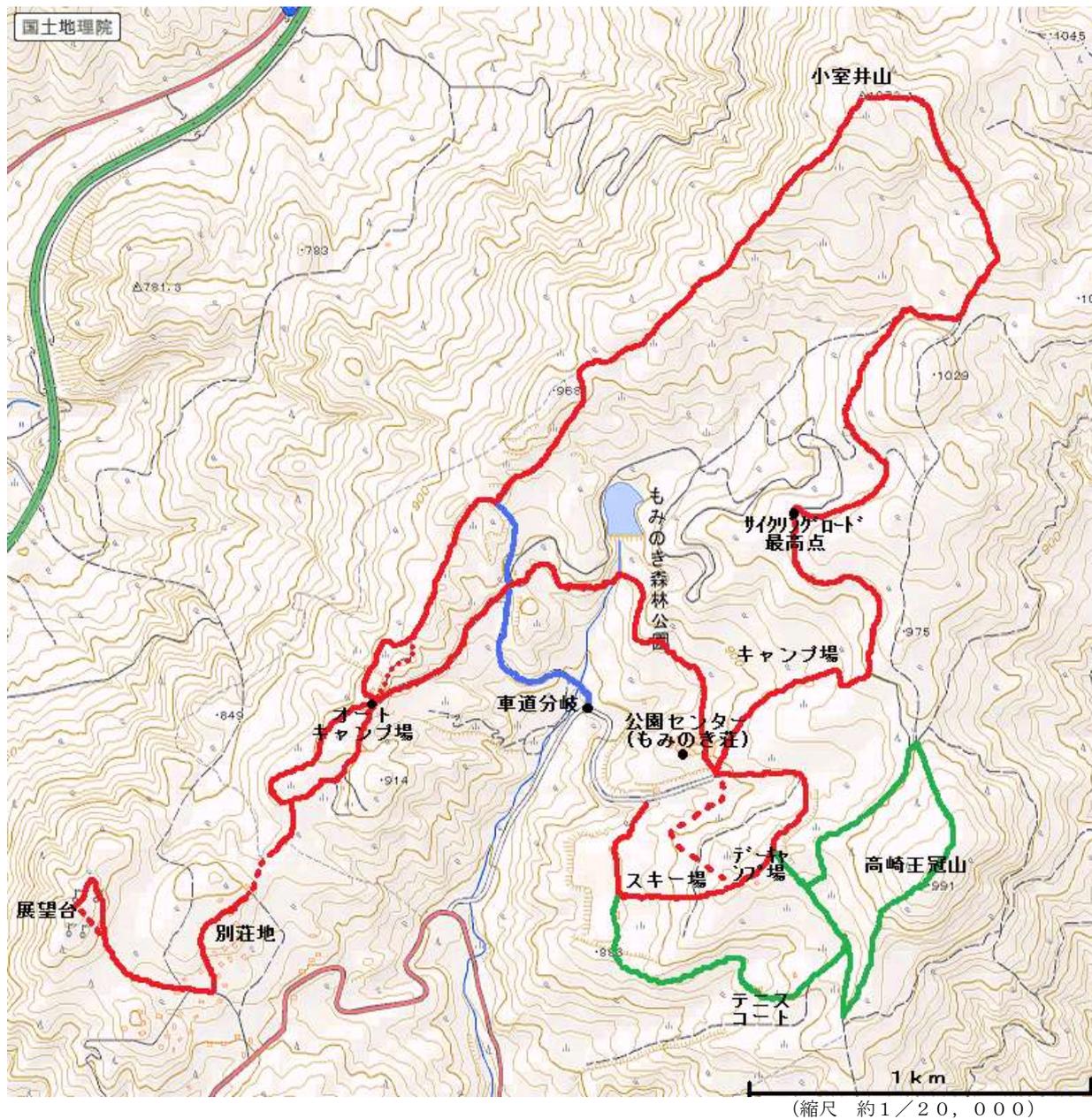


(縮尺 約1/25,000)

冠山スキー登山は冠高原からでも不可能ではないが、途中アップダウンもあるので、潮原温泉からのほうがいだろう。ただ、雪が少ないと汐谷沿いは苦勞する。場合によってはスキーは担いだほうがいかもしれない。所要時間は登り3~4時間・降り1.5~2時間というところ。

標高900mの汐谷を離れる地点に延びてきている林道は、冠山の南東側に延びてきている林道の延長だろう。国道186号線の林道入口から歩くとなると距離は約5km、2時間ほどかかるだろう。

5. もみのき森林公園



もみのき森林公園はどこを歩き回ってもよいが、まとまったコースとしては、

- ① オートキャンプ場への車道分岐から小室井山往復 (青色+赤色一部) 1時間半～2時間
- ② 公園センター (もみのき荘)～キャンプ場～サイクリングロード最高点～小室井山～オートキャンプ場～別荘地・展望台往復～公園センター (+～デーキャンプ場～スキー場～公園センター) (赤色) 4～5時間 (+30分)

といったところだが、

- ③ スキー場東の991ピーク (高崎王冠山) や公園南端のテニスコート一帯 (緑色) 1～2時間に足を延ばすのもよい。

なお、一周6kmのサイクリングロードは、冬季にはクロスカンリースキーコースになる。もみのき森林公園のホームページからは、サイクリングロード以外のコースも含めたクロスカンリースキーコースの案内図がダウンロードできる。(次ページに掲載)

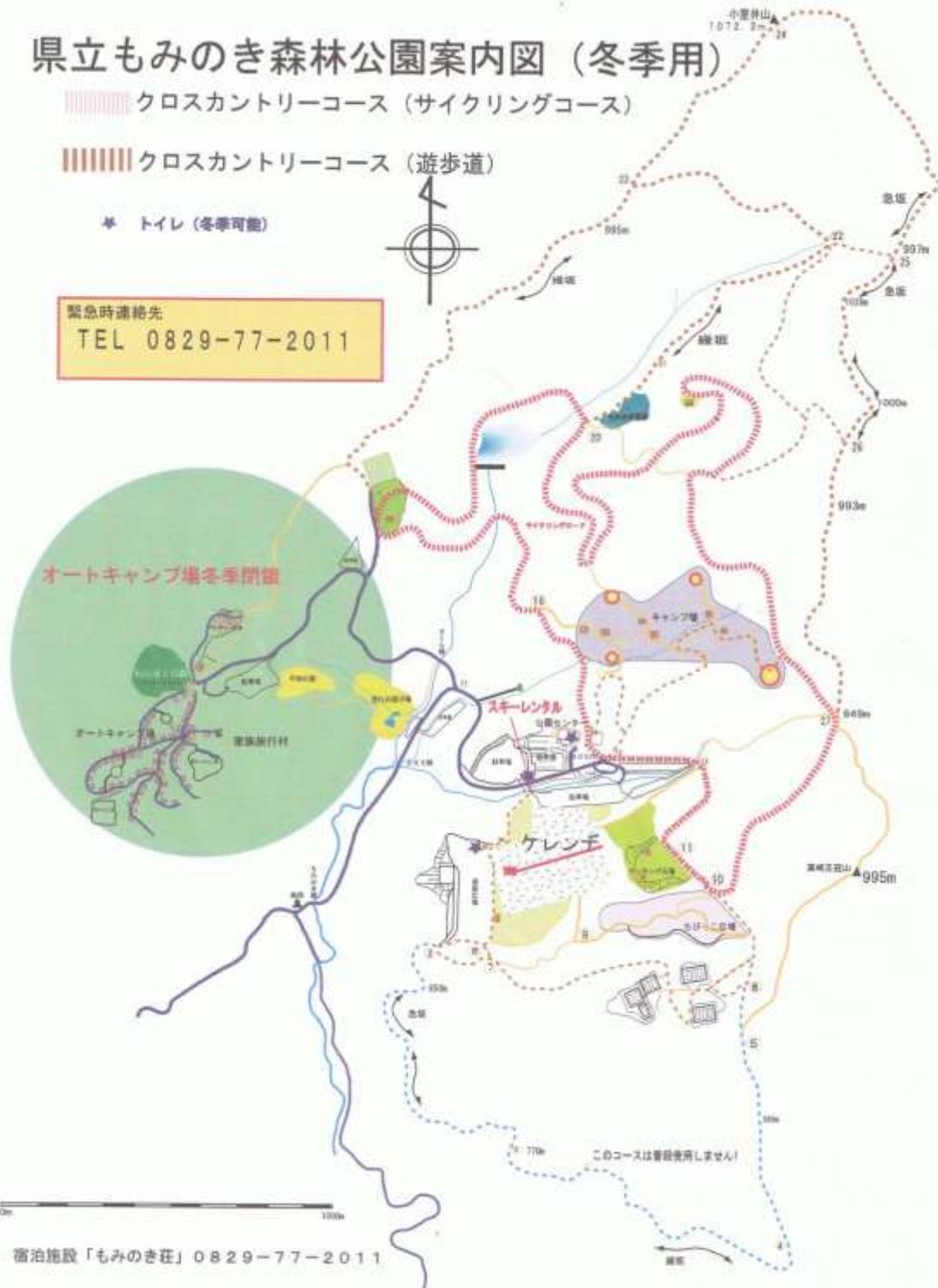
県立もみのき森林公園案内図（冬季用）

||||||| クロスカントリーコース（サイクリングコース）

||||||| クロスカントリーコース（遊歩道）

★ トイレ（冬季可能）

緊急時連絡先
TEL 0829-77-2011



もみのき森林公園ホームページより

6-1. 恐羅漢山



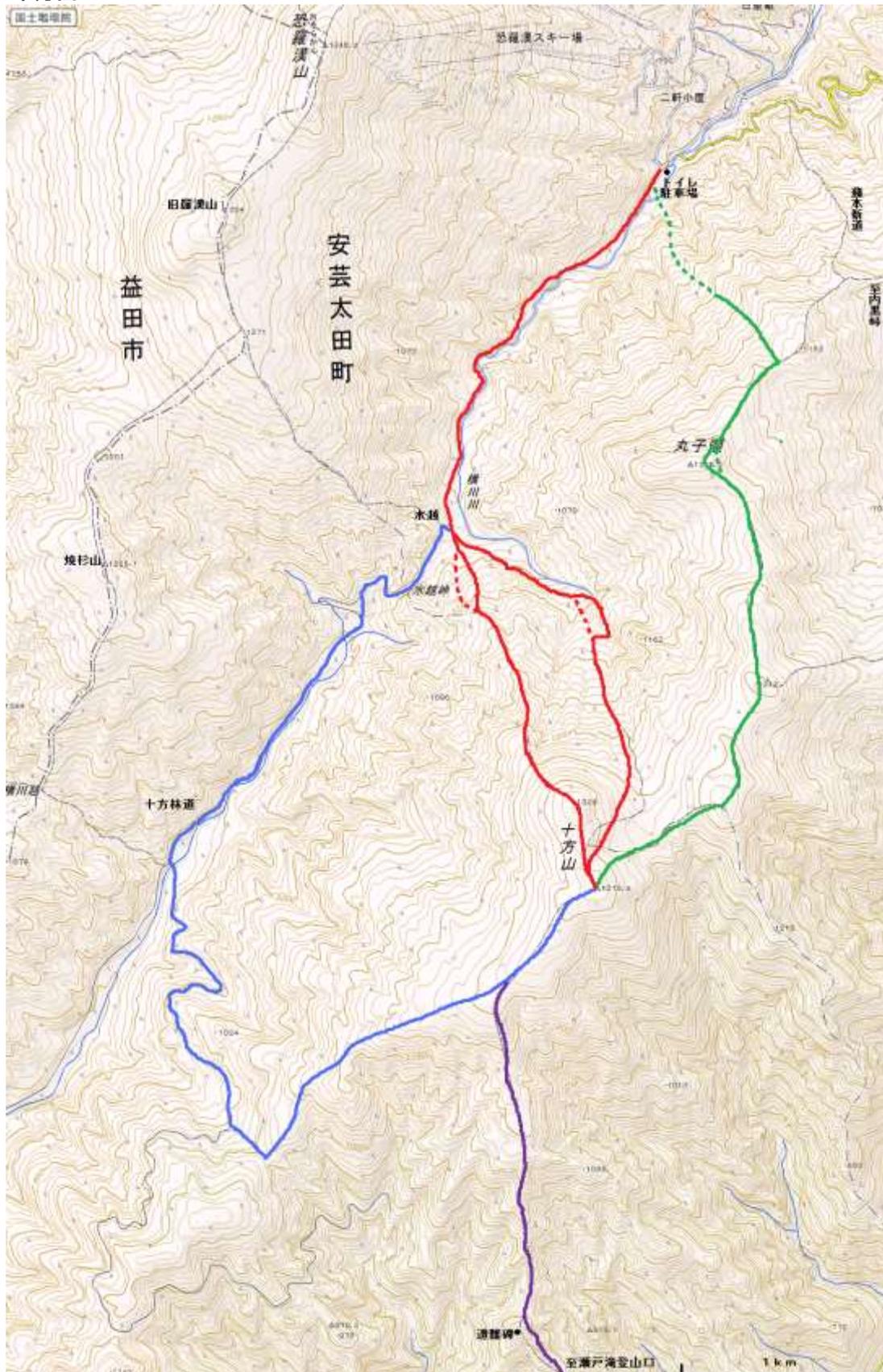
(縮尺 約1/25,000)

恐羅漢山の主なコースは

- ① スキー場から山頂(+旧羅漢山) 往復 (赤色) 山頂往復 30分(ブナ坂より)・1時間(カヤバタより)
旧羅漢往復 2時間(ブナ坂より)・2時間半(カヤバタより)
- ② 旧羅漢～水越コース (青色) 3～4時間(ブナ坂から。二軒小屋駐車場からスキー場まではさらに徒歩 20分)
- ③ 夏焼峠(またはそのショートカット) コース (緑色) 2時間(ショートカットで1時間半)
- ④ 台所原コース (紫色+赤色一部または緑色一部) 3～4時間 (恐羅漢・旧羅漢鞍部から台所原へは、北西方向に向けてほぼ一直線に降ればよい。少し降ると小さな沢(亀井谷源流)が現れるので、その沢の右岸に沿って降って行けばよい。台所原からさらに中ノ川山(なかのごうやま 1170m)に足を伸ばしてもよいが、冬はどこがピークなのかよくわからない。台所原～中川山往復は 1.5～2時間)

なお、恐羅漢山を中心とする山域(十方山・深入山・臥龍山など)の地図として、安芸太田町が発行している『西中国山地国定公園周辺トレッキングマップ』(500円)が便利である。(戸河内ICすぐそばの道の駅で販売している。)

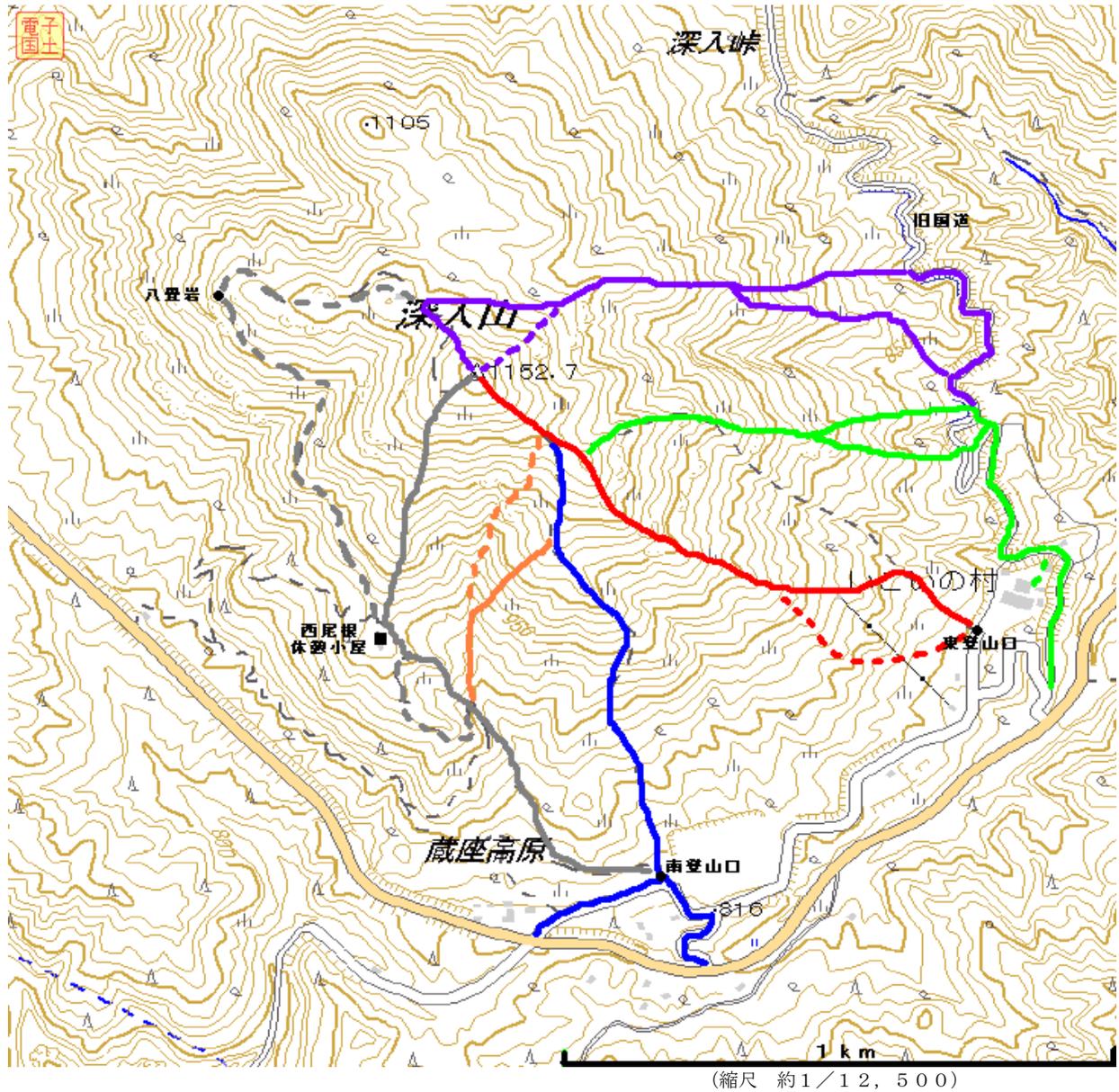
6-2. 十方山



十方山での主なコースは、林道経由で水越まで達した後、 (縮尺 約1/30,000)

- ① 北斜面往復 (夏道沿いまたは市町村境尾根沿い) (赤色) 二軒小屋から往復 3~4 時間
 - ② ~山頂~南西尾根~林道経由で水越~二軒小屋 (赤+青色) 約 6 時間
 - ③ ~山頂~三ツ倉~丸子頭~二軒小屋 (二軒小屋へ下る夏道は藤本新道だが、雪があれば別ルートも可能) (赤+緑色) 半日超 (地区大会時の安芸高は 6 時間。雪が下まで付いていれば、もう 30 分は速かっただろう。)
- であるが、このほか、下部は難コースだが、瀬戸滝登山口から往復することもできる。(紫色) 約 7 時間
 なお、十方山山頂は通常は展望の良い南のピーク (1319m) を指す。

7. 深入山



『バックカントリーの楽しみ』で紹介したのは

- ① 東登山口 (いこいの村) コース (赤色)
- ② 南登山口 (蔵座高原) コース (青色)
- ③ 小ピーク東尾根コース (緑色)
- ④ 山頂北・東尾根コース (紫色)

の4つであるが、このほか

- ⑤ 西尾根コース (灰色実線)

も可能である。

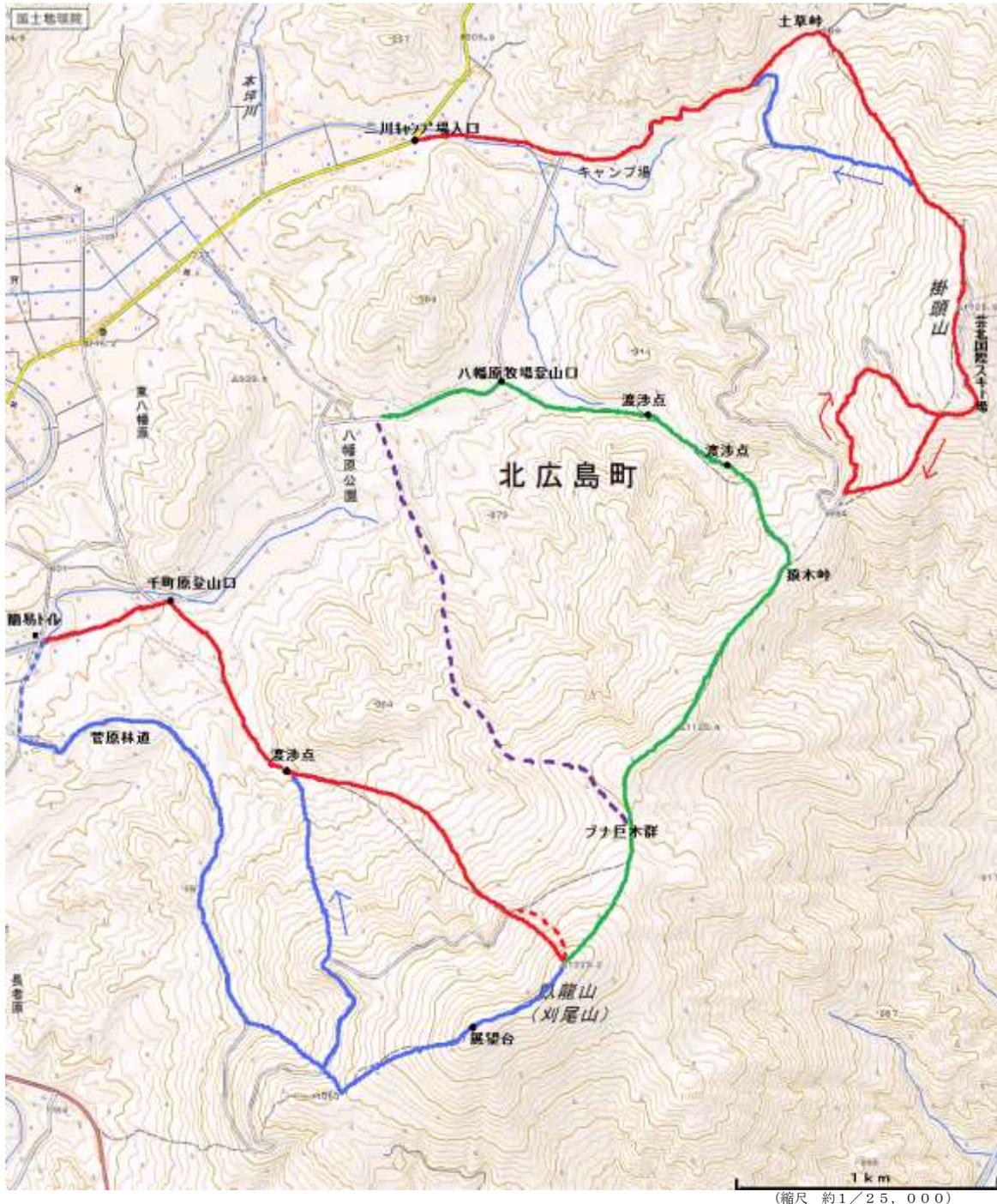
また、日当たりのよい尾根筋の雪がなくなる残雪期には、山頂南の谷筋コースも可能である。(橙色) 谷の上部がデブリで難しそうであれば、②のコースの途中から滑り降りることができる。

所要時間はいずれのコースも往復1時間半から2時間。

以上は滑降を目的としたコースだが、ステップつきの板で山頂の西側を巡るコース(灰色点線)を歩くという楽しみ方もできる。もちろん山頂の展望は360度でそれに勝るものはないのだが、西回りルートの中にある八畳岩もなかなか展望が良い。特に聖湖方面の眺めが良い。

なお、地図中にあるいこいの村のリフトは現在は撤去されている。

8. 臥龍山・掛頭山



臥龍山のコースとしては、

- ① 千町原（せんちょうばら）登山口からの往復（赤色） 3～4時間
 - ② 菅原林道を利用したの往復（青色） 3～4時間（降りは林道を北側に進み〈若干登りだがシールなしでも大丈夫〉、①コースの渡渉点付近に滑るともっと楽しい。）
 - ③ 八幡原牧場登山口から猿木峠を経由しての往復（緑色） 4～5時間
- が取れるが、①のコースが、渡渉がありはするが、最も面白いだろう。②の展望台ピーク西側斜面はやや林が立て込む。猿木峠コースも良いが、2回の渡渉と稜線でのアップダウンがあり、距離も長い。

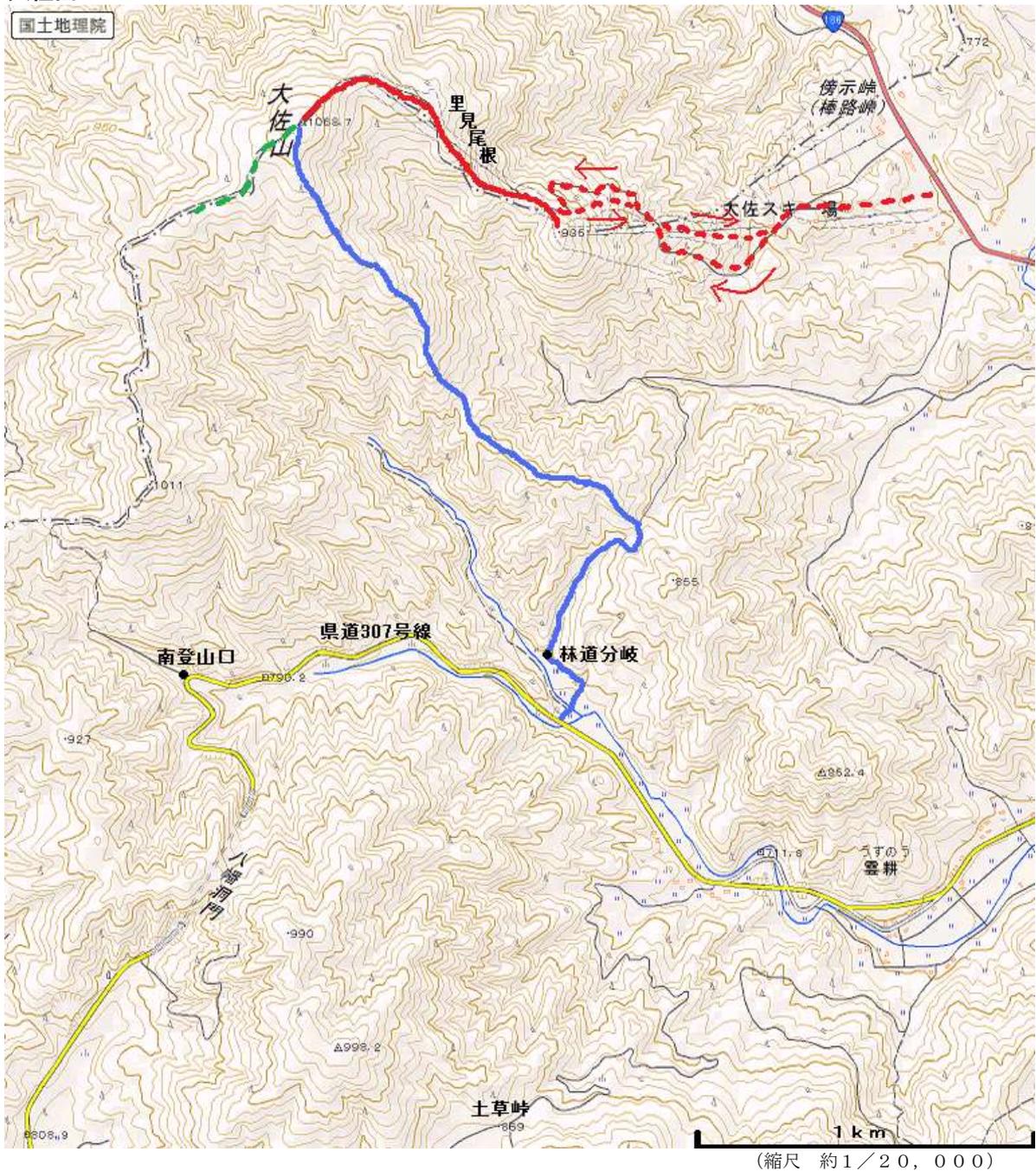
猿木峠コースで、2つのピークの後の広い鞍部から山頂に向かっての緩やかな登りのあたりには、樹幹の直径が1mを超すブナの巨木が何本も点在している。千町原コースを取る場合も、稜線側に大回りするのもいいかもしれない。斜度もその方が緩くなり、初中級者にはいいだろう。

千町原コースで、渡渉をせずに沢の右岸通しに登ることも不可能ではないが、山肌が迫ってきて、きつい箇所もあるので、あっさり渡渉をしたほうがいい。

紫点線コースは寺田先生に紹介されたもので、とても良さそうなコースに思えるが、まだ未踏査である。

掛頭山には二川（ふたごう）キャンプ場入口から土草峠経由で往復すればよい。山頂までの往復で2～2.5時間。猿木峠付近まで足を延ばせば3.5～4時間。猿木峠に向けては南西尾根を滑降し、林道を利用して登り返すとよい。なお、土草峠方面に向けては、途中から電線沿いの切り開きに沿って降ることもできる（青色）。

9. 大佐山



バックカントリーの入門コースとしてうってつけなのが、

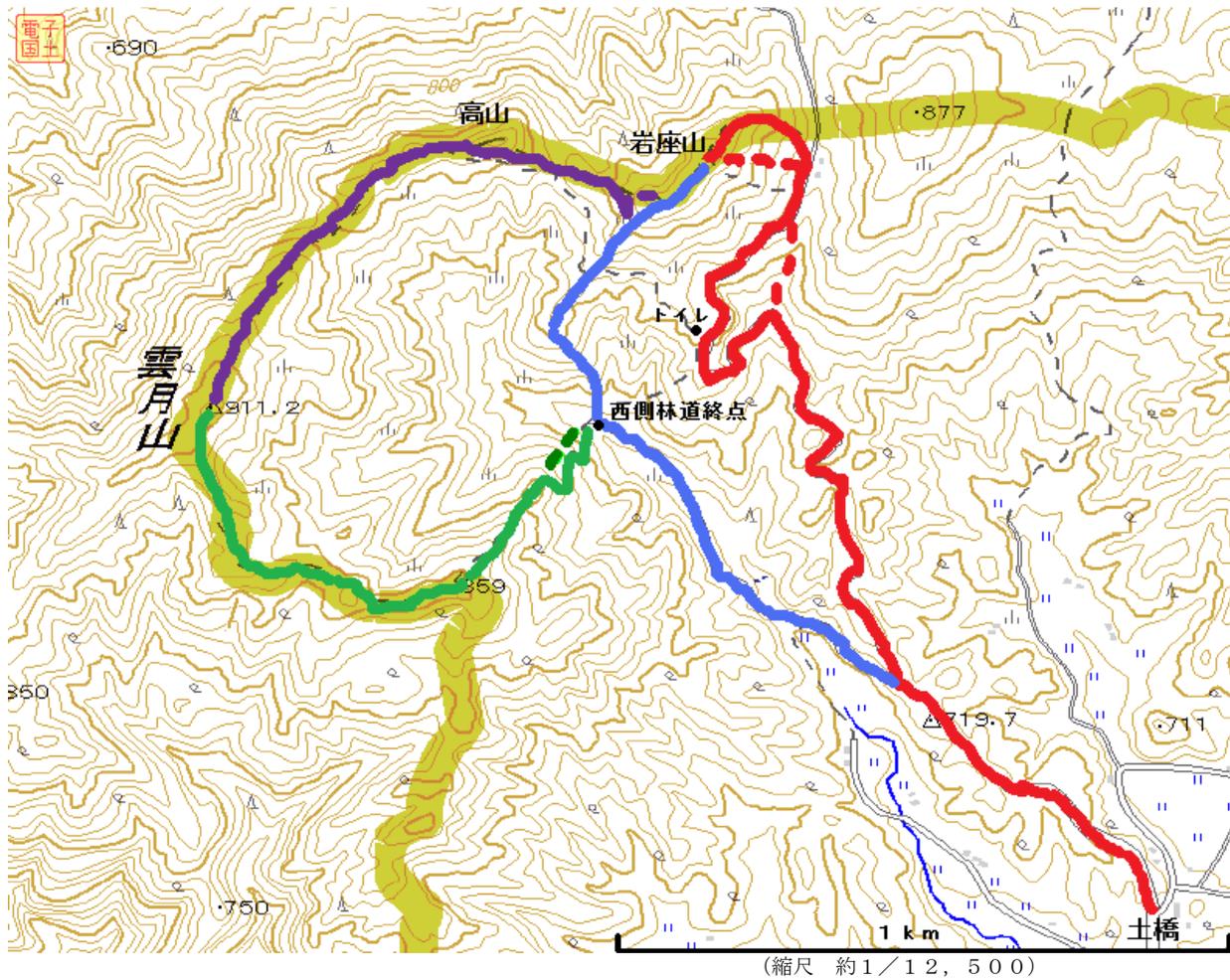
- ① 大佐スキー場里見尾根コースである。(赤色実線) 往復1時間
稼動していないリフトトップから山頂までの間も林が数m幅で切り開かれている。
シーズン始めで中間リフトも運行していなければ、
- ② スキー場の最下部から往復するのもよい。(赤色点線+実線) 2~2.5時間
登りは初中級者コースにもなる林道経由で登り、降りに上級者コースを滑降するといいたいだろう。
他のコースとしては、
- ③ 県道307号線からの林道を利用して、山頂から南~南東に延びる尾根をたどることもできる。(青色)
往復4時間

林がやや立て込むが、スキー滑降可能である。なお県道からの林道は300mほど進んだところで分岐し、除雪されている道なりの林道が川に沿ってずっと延びているので、南東尾根に取り付く除雪されていない林道入口を見落とさないようにしなければならない。

山頂南西側にはかつては立ち木の少ない斜面が広がっていたが、最近はブッシュが増えたようだ。(緑色)

なお、2015~2016年シーズンには、大佐スキー場は5の付く日(5日・15日・25日)が平日休日にかかわらず、リフト1日券が1,000円となる。

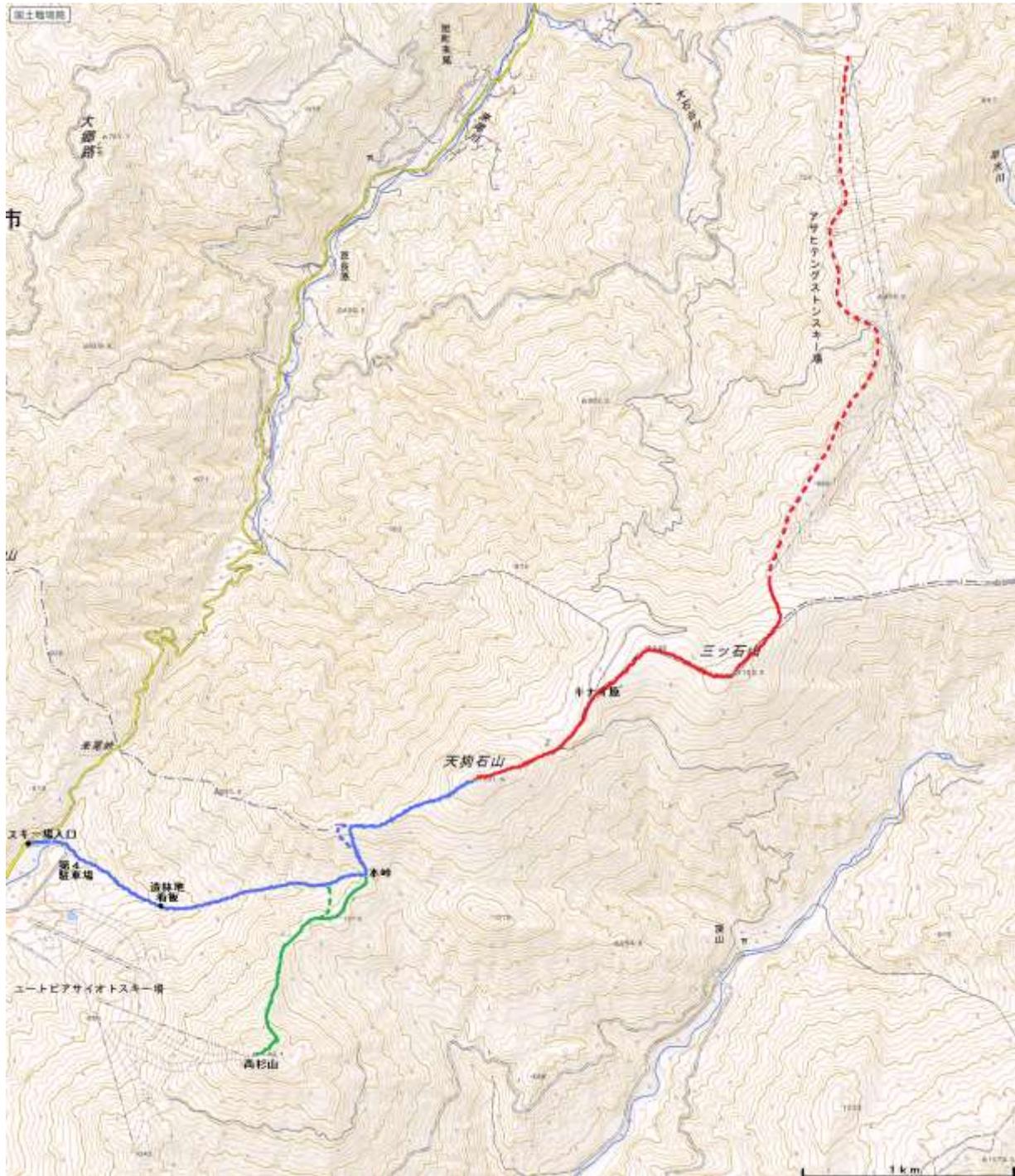
10. 雲月山



雲月山にはいろいろのコースが取れるが、まずは土橋から林道をたどって岩座山にとりつくか、あるいは途中から分岐する西側林道に入り、その終点から雲月山本峰にとりつくかである。前者はさらに

- ① 岩座山からは往路（あるいはそのショートカット）を滑降（赤色） 2～2.5時間
 - ② 岩座山から南西尾根を西側林道終点に向けて滑降（赤色+青色） 同上
- の2コースとなり、後者は
- ③ 雲月山からは往路を滑降（赤・青の一部をたどり、緑色） 2.5～3時間
 - ④ 雲月山～高山～岩座山南西尾根～西側林道終点と一周（③からさらに紫色+青色・赤色） 同上
- という2コースがよいだろう。

11-1. 高杉山・天狗石山・三ッ石山



(縮尺 約1/30,000)

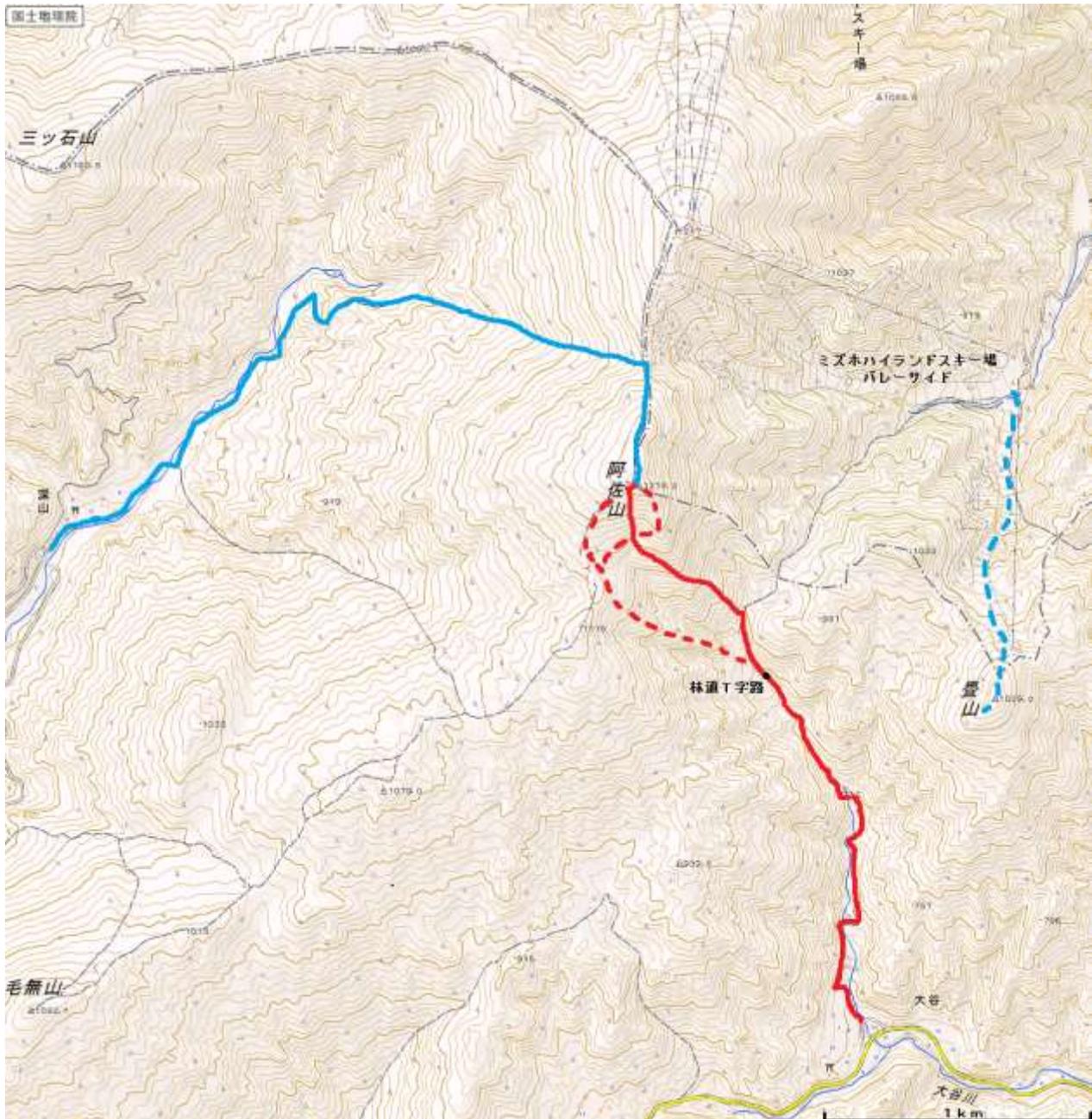
- ① アサヒテングストンスキー場～三ッ石山往復 (赤色一部) はバックカントリー入門コースで1時間
- ② 三ッ石山からキナイ原～天狗石山へとさらに足を延ばせば (赤色全部) 2.5～3時間
- ③ ユートピアサイオトスキー場の第4駐車場～天狗石山往復 (青色) 3～3.5時間
- ④ 第4駐車場～高杉山往復 (青色一部+緑色) 3～3.5時間
- ⑤ ③④をセットにすれば、5～6時間

第4駐車場からは谷沿いに進むが、造林地看板までは左岸をトレースし、看板手前の橋を渡る。以後少し右岸の林道をトレースし、やがて小さな尾根上を進むようになり、峠が近づくとまた林道に入る。

かつてアサヒテングストンスキー場とユートピアサイオトスキー場とが同一経営となったとき、両スキー場間がツアーコースとしてパンフレットかホームページにも紹介されていたが、いまはどうなっているだろうか？縦走ツアー後の交通手段が手配されればいいが、往復するとなると6時間くらいかかるだろう。

なお、アサヒテングストンスキー場の営業開始は例年12月25日頃と遅めなので、もしもそれ以前にまとまった雪が降れば、ゲレンデが規模の大きなバックカントリーコースとなる。ゲレンデボトム(550m)～トップ(1060m)の往復は、3時間程度。

11-2. 阿佐山



(縮尺 約1/25,000)

阿佐山はミズホハイランドスキー場のバレーサイド(ビッグ&リトルモーニングコース)からは簡単にアプローチできるが、

- ① 西麓深山から往復 (青色 3~4時間) あるいは
- ② 南麓の大谷から往復 (赤色 4~5時間) すると面白い。なかでも②の大谷からのルートは圧巻だ。

①のコースは、私が山スキーを始めた頃(1986年か1987年頃)の4月初旬に一度だけ訪れたことがある。春休みの4月2日であったと思うが、山からの帰り、屋根にスキーを積んだ車でガソリンスタンドに立ち寄ると、「まだスキーができるのですか」と店員さんに驚かれたものだ。雪の多い年だったと思うのだが、山麓の深山で60cmほどの積雪があった。コースは半分くらいまでは林道で、その先も傾斜は比較的緩く、山スキー初心者にとってはぴったりのコースだと思った。

②のコースは、広島県の山スキーの第一人者である林先生に5年ほど前に教えていただき、その後、林道T字路までの偵察を含めると3度訪れたが、やはり広島県のバックカントリーコースの中では最も面白いコースの1つだと思う。なお、林先生のホームページ「広島山スキーの会」を拝見すると、阿佐山東面県境沿いのブナ林ルートも紹介されている。

ミズホハイランドスキー場の営業開始はかなり早く、雪が降れば11月にも営業を開始することがあるが、バレーサイドの営業開始はいくぶん遅れるようで、アサヒテングストーン同様、ゲレンデ内をバックカントリーとして楽しむことができる。手頃なのは畳山。1時間半から2時間ほどで往復できる。ただし畳山の山頂は、どこが山頂かわからないほどみずばらしい。南西に100mばかり行けば多少展望はあるが。

1 2. 寒曳山 1 3. 芸北文化ランド 1 4. 龍頭山



(縮尺 約1/25,000)

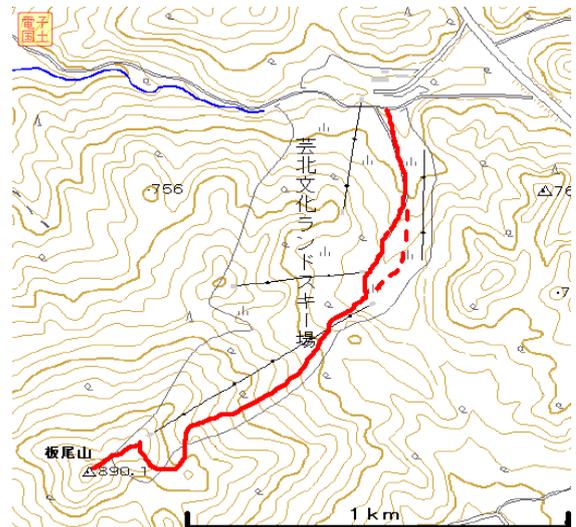
寒曳山

寒曳山は特に所要時間を示すまでもないミニミニコース。

なお、普通の登山コースとしては、南麓の枝の宮からのコースがある。安西高に赴任した最初の年度の2月(1984年)、生徒たちに教えてもらった雪山に味を占め、単独で登ったことがある。低山ながら積雪は多く、2mほどあったと記憶する。山頂からの東稜に達したところで尾根筋にルートを取り、山頂に至った。スキーヤーたちが何人か登ってきていた。(なお、当時のリフトトップは標高750mくらい。)

龍頭山の林道ルートは、エピソード8で紹介した第3回雪山研修会の行き帰りの道中、寺田先生にお聞きして知ったものだが、さっそくその3週間後に訪れた。あいにく天気と雪が良くなかったので、次は新雪後の好天の日を訪れてみたい。

林道終点(858m)からは、山頂へ至る尾根の東側をトラバースするように遊歩道が付いているので、それを辿ればよいが、ただし主稜線との合流点(889m)から山頂までは100mほどの距離ではあるものの、急な階段となっているので、スキーはそこにデポしておくか、あるいは林道終点から山頂へ至る尾根を頑張って登るのがよい。この尾根も登山道が付いているので、林には切り開きがあり、滑降もできるだろう。



(縮尺 約1/20,000)

芸北文化ランド(板尾山) 往復1時間半



(縮尺 約1/25,000)

龍頭林道コース 往復3~4時間(車は林道入口付近に駐車可)

(三瓶山の続き)

三瓶山の主峰は何と言っても男三瓶であるが、女三瓶が OK なら男三瓶も大丈夫だろう。

④ 最も達成感を味わえるのは南西稜だ。西の原からの往復約 5 時間

途中 3 本あるラインのうち、北西側のラインは夏道沿いで、登路として考えられる。ただ、樹林帯を抜けると、冬の季節風がまともに吹きつける斜面であるので、場合によってはピッケル・アイゼンの携行が必要である。斜度も急であるので、少なくとも途中からはスキーは担いだほうがよい。

南東側のラインが滑降ラインで、多少ブッシュのある幅の狭いルンゼという感じだが、ブッシュが雪で埋まっていればすこぶる快適に滑れる。ただし、雪が少ないとブッシュに悩まされる。目安としては、西の原一帯で数十 cm 以上の積雪が必要だろう。

真ん中の点線ラインが尾根筋であるが、登路として使えるし、また、そのやや南寄りの斜面を滑降ルートとしてとれるかもしれない。西の原から見たときに白くつながって見えるのはむしろそのラインだが、私はまだ降りにトレースしたことはない。

男三瓶の他のコースとしては

⑤ ブナ樹林帯になる男三瓶北斜面。北の原から往復約 4 時間

急斜面 (35 度くらい) ではあるが、新雪であれば快適だろう。実線ラインが夏道沿いだが、中間部平坦地より下は登りも降りも点線ラインがよい。平坦地より上は、登りに実線・降りに点線ラインがよい。山頂直下はブッシュがうるさいので、実線と点線が分かれる地点 (1050m) にスキーをデポしておくのもよい。(山頂一帯の広い台地をスキーで散歩するという楽しみもありはするが。)

16. 大万木山



(縮尺 約 1/30,000)

大万木山の手軽なコースは

① 新生坊峠からの往復 (赤色) 3~3.5 時間

であるが、12 月の本格的な降雪前か、3 月後半になって峠までの道が除雪されてからでないといけない。山麓からのアプローチとなると、広島県側からは

② 和南原 (わなんばら) からの往復 (青色+赤色) 5 時間くらい

島根県側からは

③ 滝見コース往復 (緑色+赤色) 4~5 時間 (降りは地蔵尊よりも西側の尾根がよい。)

となる。

山頂一帯の緩斜面を様々な方向に動き回るのも面白い。権現コースを少し行けば、ブナの巨木「たこバナ」を見ることもできる。

17. 広島県民の森



(縮尺 約1/35,000)

比婆山連峰で、手軽でなおかつ趣きのあるコースは

- ① 県民の森スキー場～比婆山（御陵）の往復（赤色） 1.5～2時間である。

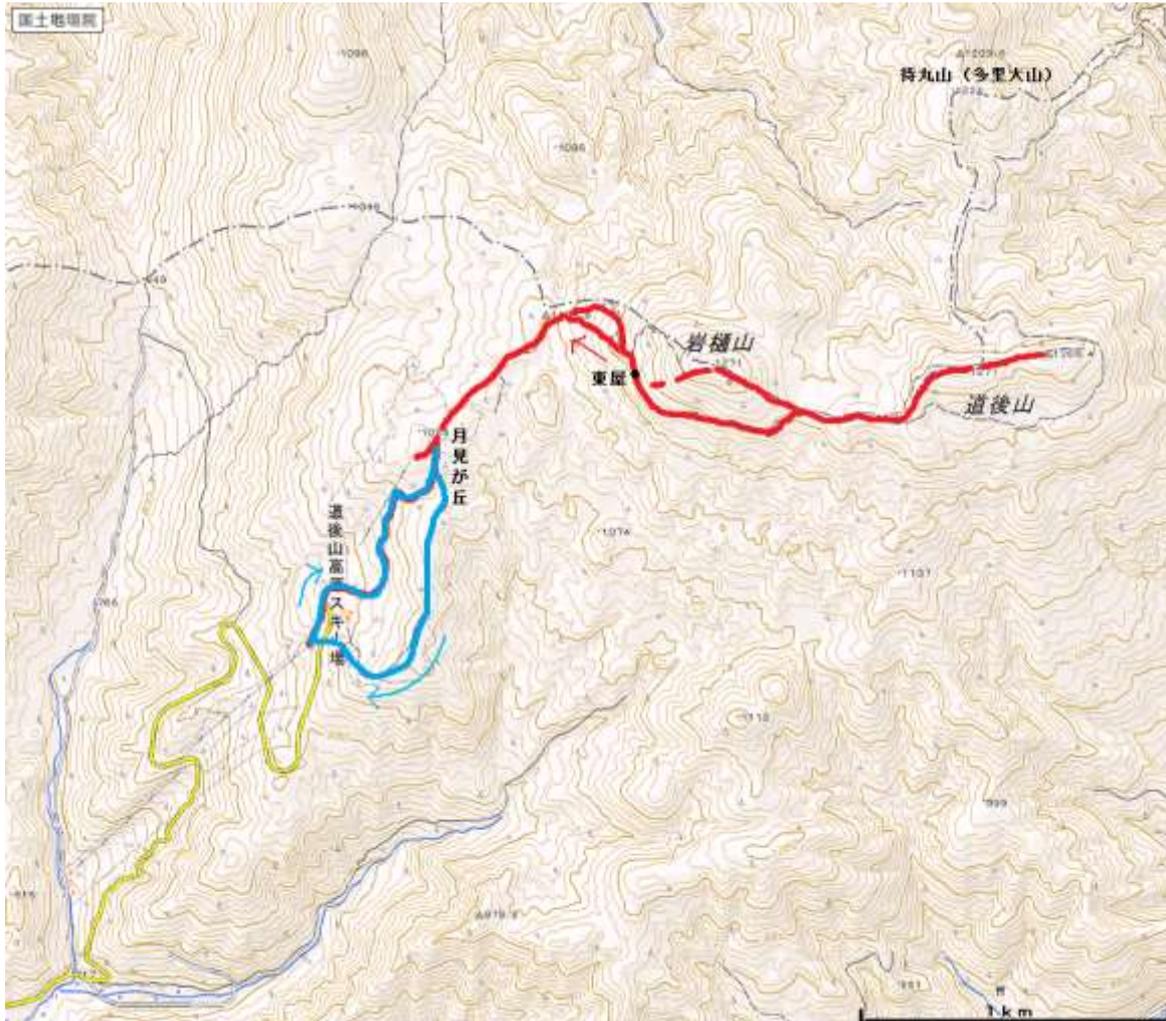
公園センターのある六ノ原を起点にすると

- ② 展望園地往復（青色一部） 1.5時間
 ③ 笹尾根経由で立烏帽子山・池ノ段往復あるいは越原越（おっぱらごえ）経由での周遊（青色）4～5時間
 さらに足を延ばして
 ④ 笹尾根～越原越～御陵～烏帽子山～出雲峠～六ノ原と一周（青色＋緑色） 7～8時間
 また
 ⑤ 毛無山往復 3時間（出雲峠方面に滑り込んでもよいが、ややブッシュがうるさい。）
 ⑥ 伊良谷山（いらたにやま）あるいは牛曳山往復 3時間
 と、長短様々なコースが取れる。また、山頂に立たずとも、クロスカンリースキーなどで
 ⑦ 出雲峠を往復 1.5時間
 するのもいいだろう。

広島県で深入山に次いでオープンバーンが楽しめる吾妻山は

- ⑧ 越原からの往復 約5時間
 さらに
 ⑨ 越原～吾妻山～大膳原～比婆山（御陵）～越原越～池ノ段～元ドルフィンバレースキー場と一周（赤色＋緑色一部＋青色一部） 9～10時間
 という極めつけのコースがある。

18. 道後山



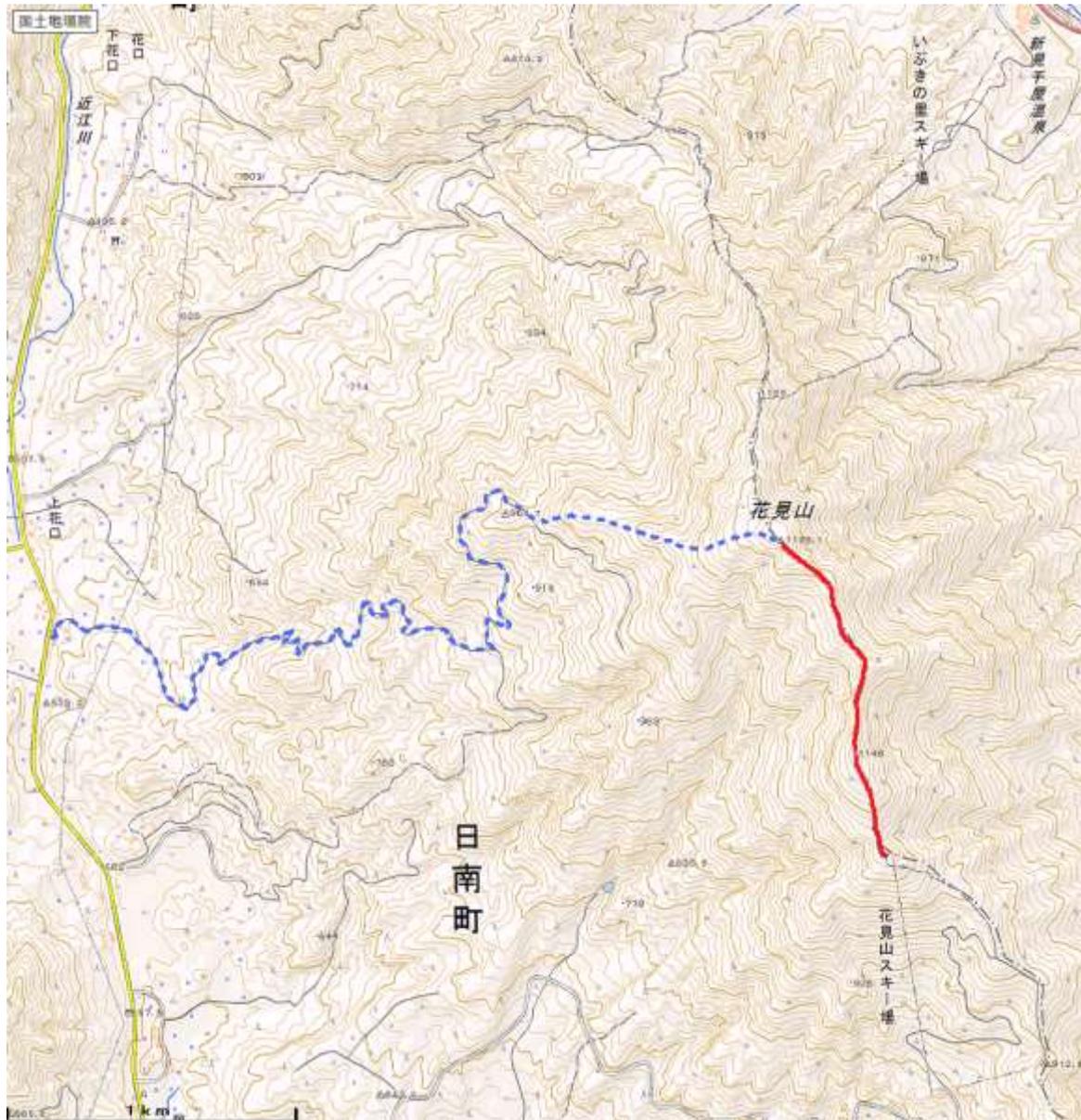
(縮尺 約1/25,000)

道後山でのコースは、

- ① 月見が丘～道後山往復 (+鞍部～岩樋山往復) (赤色) 約3時間 (+30分)
(岩樋山西斜面は上部はよいが、下部はブッシュが立て込む。東屋からの降りは夏道沿いでなくショートカットしてもよい。)
- ② ロマンズリフト降り場～月見が丘一周 (時計回りがよい) (青色) 1～1.5時間
が主なもの。

時間があれば、道後山からさらに北の 1224 ピーク (持丸山・多里大山) を往復するのも面白そうだ (赤色点線)。こちらはまだトレースしたことがないが、道後山から往復 1～1.5 時間くらいだろう。さらには、岩樋山北東の小ピークなど、山頂一帯には至る所に開けたスロープが広がっている。

19. 花見山



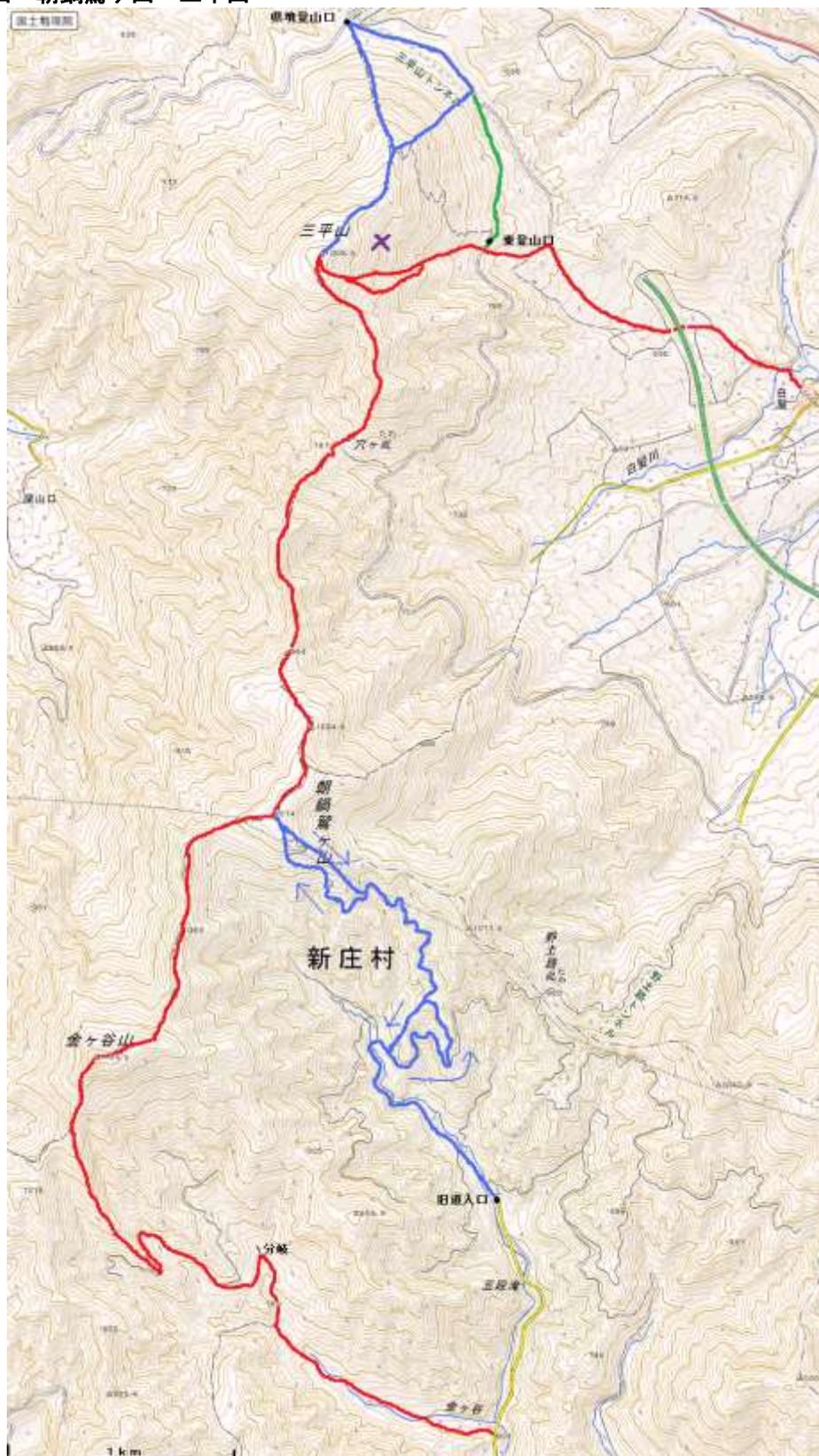
(縮尺 約1/25,000)

花見山スキー場のリフト終点からは、登りは40～50分、降りには(1146への登り返しも含め)30分くらい。

まだトレースしてはないが、西側の上花口からの往復も面白そうだ。登りで3～4時間、降りでも1時間くらいか。車が2台あれば、花見山スキー場から縦走するのもいいかもしれない。

また、北側にはいぶきの里スキー場もあり、こちらからもアプローチできそうだ。

20. 金ヶ谷山・朝鍋鷲ヶ山・三平山



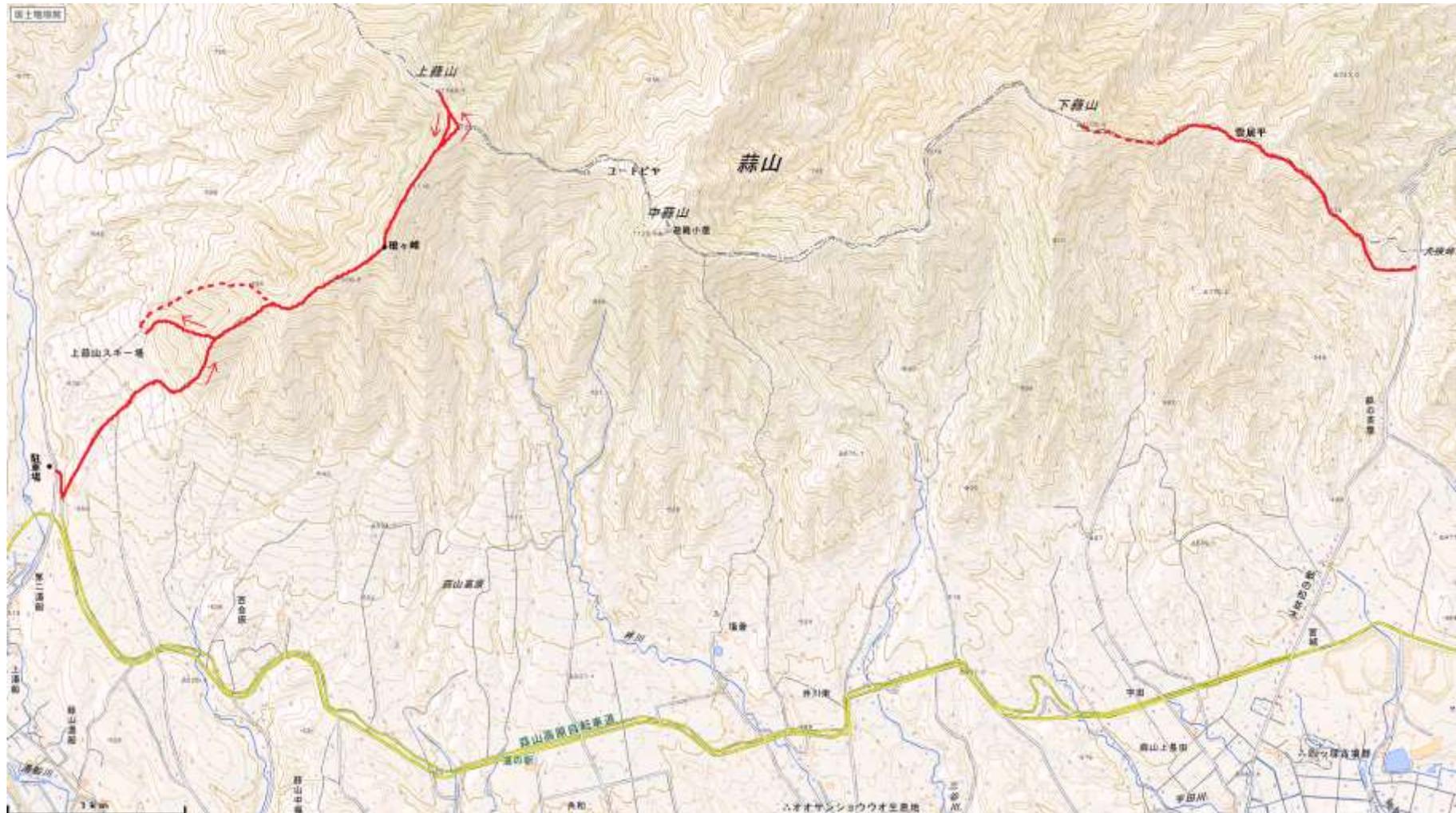
(縮尺 約1/30,000)

金ヶ谷山～朝鍋鷲ヶ山～三平山の縦走は、岡山県のゴールデンルートと呼べる素晴らしいルート。所要時間は6～7時間。登り口と降り口が異なるので、2台車があるとよい。2地点の車での子来は片道10分程度。

県境登山口～三平山往復は1.5～2時間。東登山口経由の場合は2.5～3時間。なお、三平山東斜面の紫×のあたりは特に雪崩が発生しやすいので要注意。その南側の谷筋も雪崩が心配なら尾根筋を。

旧道入口～朝鍋鷲ヶ山往復は2.5～3時間(登り2時間・降り30分くらい)。降りは林道カットのラインがよい。

21. 蒜山

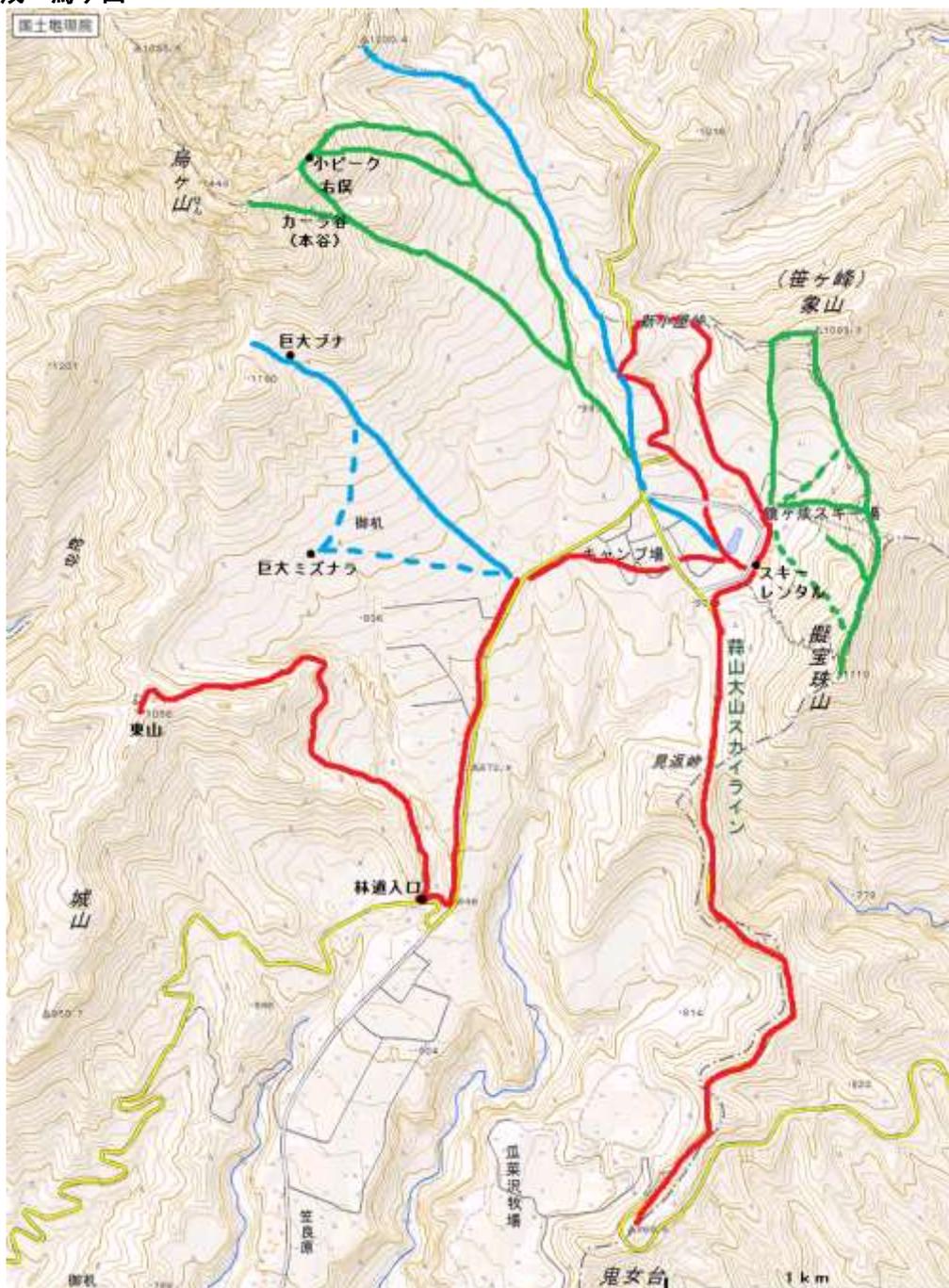


(縮尺 約1/35,000)

上蒜山・下蒜山ともに赤色実線ラインが実際にトレースしたもの。上蒜山下部は南側が登路、北側が滑降ルート。また、山頂手前は、登りには1200ピークを踏み、降りにはそれをトラバースした。 駐車場から往復5~6時間。

赤色点線はトレースしてはいるが、滑降ルートあるいは登路としても使えそう。登りの急傾斜を避けるには、むしろこちらのほうがいいかもしれない。犬狹峠(いぬばさりとうげ)~下蒜山往復は5時間くらい。ただ、山頂東の小ピーク付近は45度くらいありそうな超急斜面だ。

2.2. 鏡ヶ成・烏ヶ山



(縮尺 約1/25,000)

クロスカンリースキーのコース設定として面白そうなのは

① 見返峠往復 30~40分 (鬼女台(きめんだい)まで足を延ばせば、約2.5時間)

② 新小屋峠周遊 約1時間

(蒜山大山スカイライン並びに鏡ヶ成から関金への道路は冬季は車両通行止めとなる。)

③ 1230ピーク往復 (青色) 約2時間

ピーク手前は急斜面なので、クロスカンリースキーの場合は、急斜面手前にデポしておくとういだろう。ピークに立てば、烏ヶ山の北東壁や大山東壁が迫力ある姿で迫ってくる。

④ 巨大ブナ往復 約2.5時間

⑤ 東山往復 約3時間

東山へのコースは、樹林に煩わされない開けた平原が続く。後半はやや斜度のある林道。なお、東山や巨大ブナなど、西方面に行くときは、道路下のトンネルをくぐってキャンプ場経由で行くのがいいだろう。

青色の③④もある程度は滑降が楽しめるが、さらに滑降を楽しむコースとしては、緑色の

⑥ 烏ヶ山東の小ピーク(1300m)を東斜面の樹林帯経由で往復 約2.5時間

⑦ カーラ谷往復 約3時間(右俣の小さいほうだと 約2.5時間)

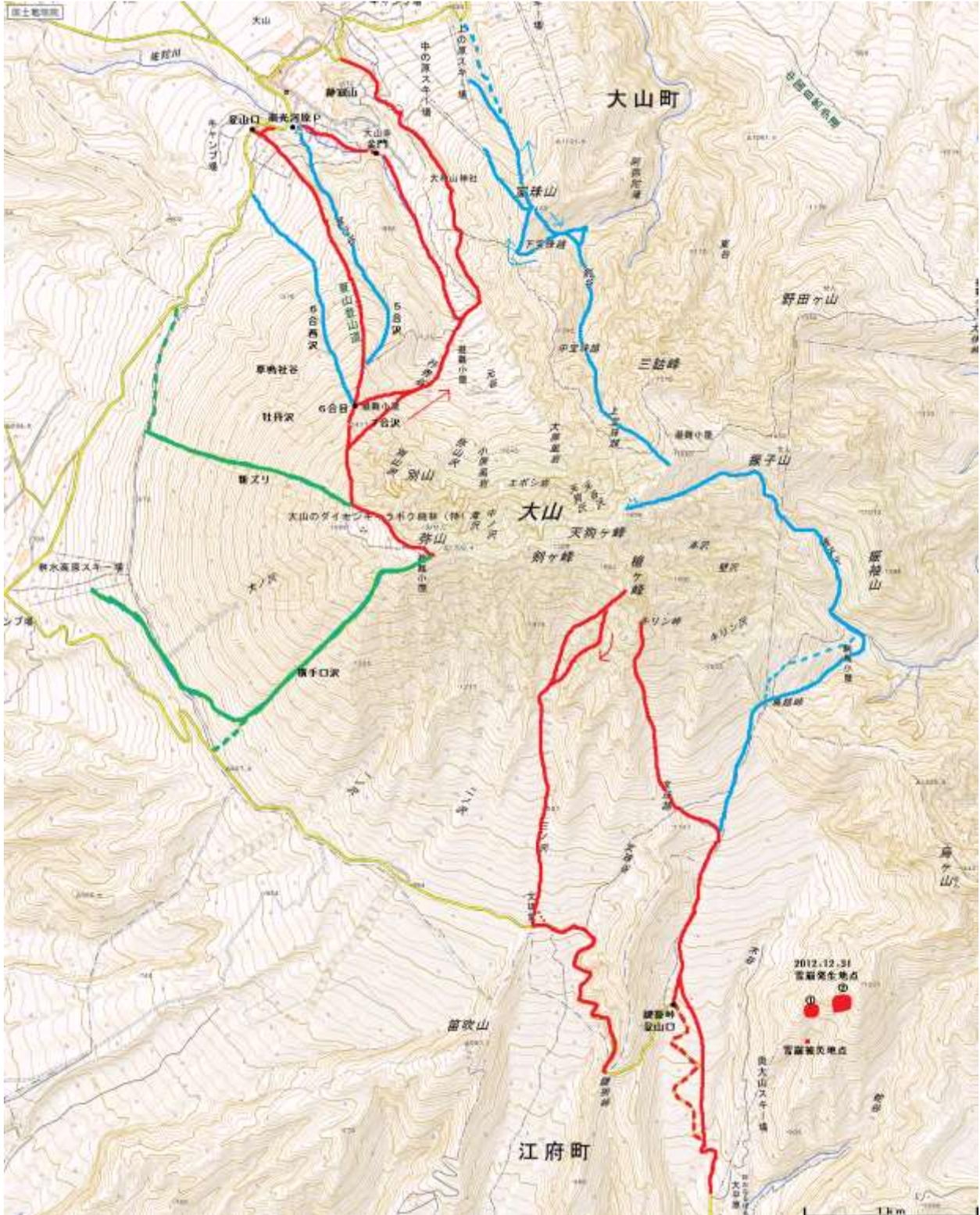
⑧ 象山往復 約1.5時間

⑨ 擬宝珠山往復 約1.5時間

⑩ 象山・擬宝珠山周遊 約3時間

(鏡ヶ成スキー場の長いリフトは運行されていないことが多く、上部ゲレンデはバックカントリー同然。そのほか擬宝珠山の尾根からは短いリフトのトップに降ってもよいし、レンタル・食堂の建物目指して直に降ってもよいだろう。)

23. 大山



大山滑降は、夏山登山口から山頂まで登った（3～4時間）後、（縮尺 約1/35,000）

- ① 頂上台地～7合目あるいは6合目～元谷～林道～静寂山北 1～1.5時間
 - ② 頂上台地～5合沢（常行谷）あるいは6合西沢などの北西側斜面 1時間前後
- また、夏山登山道の樹林帯を降ることもできるだろうし、天候が厳しいときや時間があまりないときには、6合目あるいは5合目まで登って引き返すのもいいだろう。その場合は、往復2～2.5時間くらいだろう。
- ③ 山頂から南西側の横手口沢などの滑降も②と同じくらい。但し下降地点から出発点に戻るには車が必要。
 - ④ 三ノ沢（1300～1400mあたり）往復は、文珠堂横から2時間、鍵掛峠から3時間弱。槍尾根直下（1650m付近）まで登るなら+1.5～2時間。
 - ⑤ 振り子沢往復は、鍵掛峠登山口から6～7時間、奥大山スキー場からで7～8時間
- ほかには、⑥ 鍵掛峠登山口から槍尾根南斜面（1400～1550mあたり）の往復も楽しめる。2.5～3.5時間
- ⑦ スキー場から宝珠山を越しての剣谷は、ユートピヤ上の稜線まで往復するなら約7時間。

なお、地図中には『バックカントリーの楽しみ』・「バックカントリーを安全に楽しむために」のなかで触れた 2010 年 12 月 31 日の奥大山スキー場雪崩事故の発生地点も記しています。詳しくは、鳥取県江府町が出している『奥大山スキー場雪崩事故調査報告書（最終報告）概要』をご覧ください。

(http://www.town-kofu.jp/news/news_file/110609_okudaisen_houkokusyo_saisyu_gaiyou.pdf)

2.4. 野田ヶ山



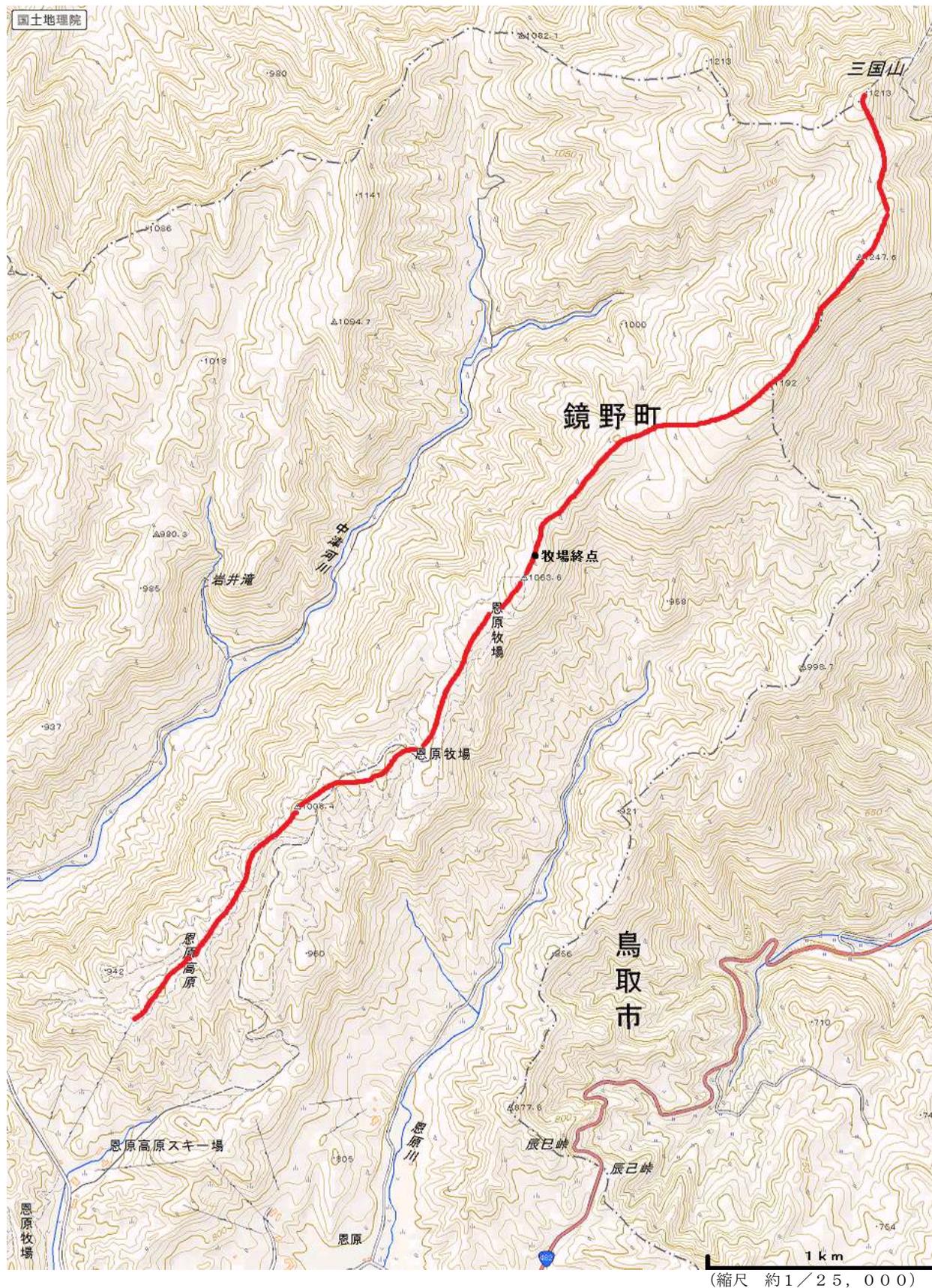
(縮尺 約 1/30,000)

積雪期に野田ヶ山にアプローチするには、大山町名和方面から南進して香取集落に至ることになるが、広島からは大山寺よりも遠方になるため、私がこれまでにトライしたのは 2 度しかない。1 回目は 2013 年 3 月初旬。標高 600m あたりから歩き始め、山頂北の大谷に入ったのちは、そのまま大谷を詰めて 1240m 地点まで登った。そして山頂の北西になる斜面をスキーで登ろうと試みたが、固い雪面の上に 5cm ばかりの新雪が乗っているというコンディションで、急斜面はシール登高では極めて登りづらく、そこで断念した。なお降りは、大谷をまっすぐ滑りすぎて、往路の台地に上がるのにやや苦勞した。

2 回目は 2014 年 3 月末。このときは大谷から北東稜線に取り付き、首尾よく山頂に達した。そして北東稜線あるいはすぐ右側の小さな谷の滑降はすこぶる快適であった。このときのコースタイムは登り 3 時間ちょうど、降り 1 時間弱。(1 回目の大谷上部までは登り 2 時間 20 分、降り 1 時間弱。)

なお、750m 前後の林道が大きく迂回するところはショートカットでもよい。

25. 恩原高原・三国山



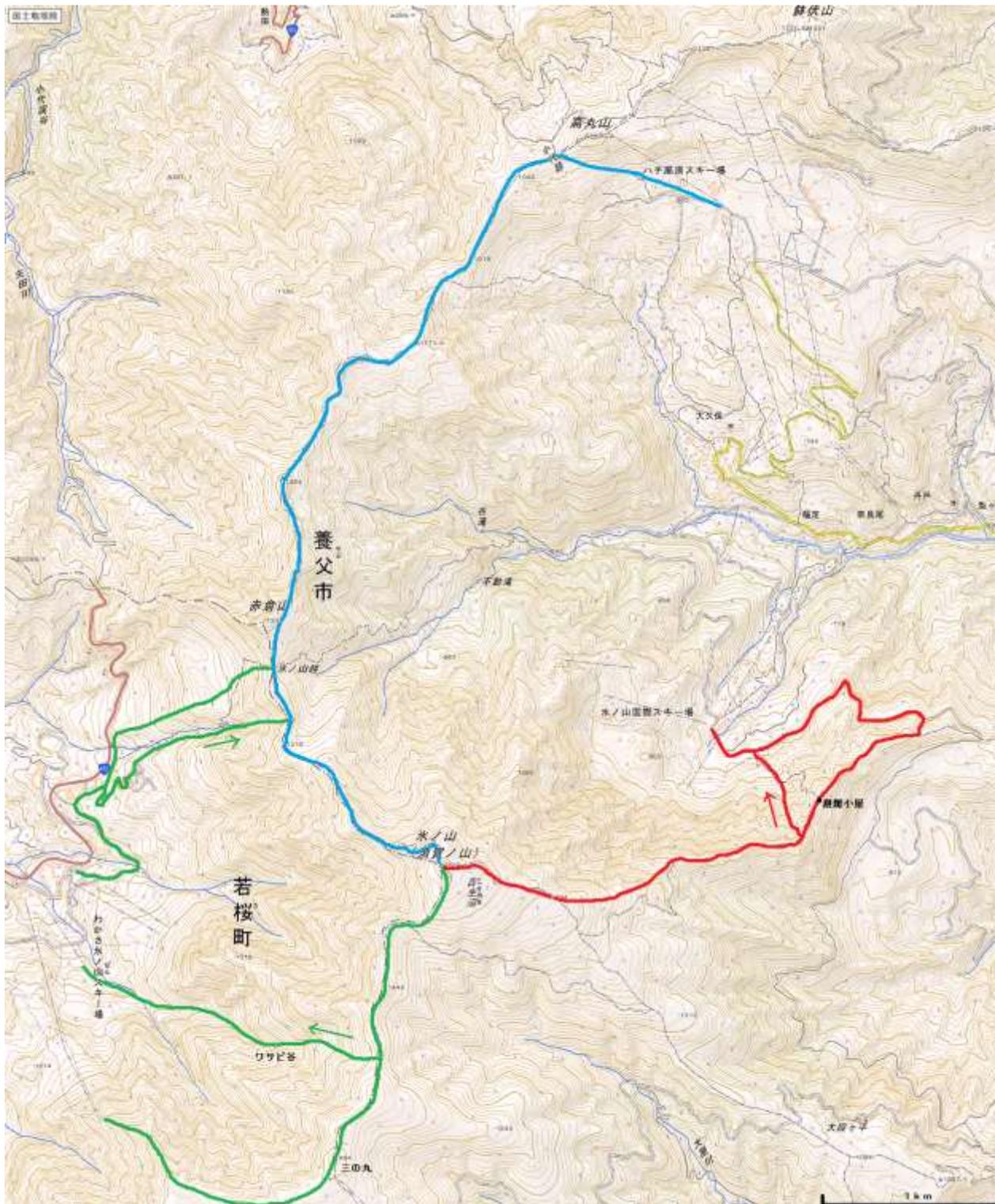
スキー場ゲレンデトップから三国山までは往復 11km、所要時間は 5～6 時間
 中間点となる牧場終点 (1065m) までだと往復 5.5km、2～2.5 時間
 (1192～1247 間の県境尾根で 1ヶ所スキーでの通過に難所があったが、それ以外は全く問題なし。)

26. 那岐山



那岐山へのスキー登山は国道 53 号線から那岐山の東側を縫う林道に入るのがよい。所要時間は登り 2.5～3 時間、降りは林道までは約 1 時間。林道にずっと雪が続いていれば 15～20 分くらいで出発点に帰着できる。(2015 年の 3 月 15 日に富永先生とトレースした際は、670mあたりで滑降終了となり、あとは 10 分少々歩きとなった。)

27-1. 氷ノ山（東尾根、ブン回し、若桜側）



(縮尺 約1/35,000)

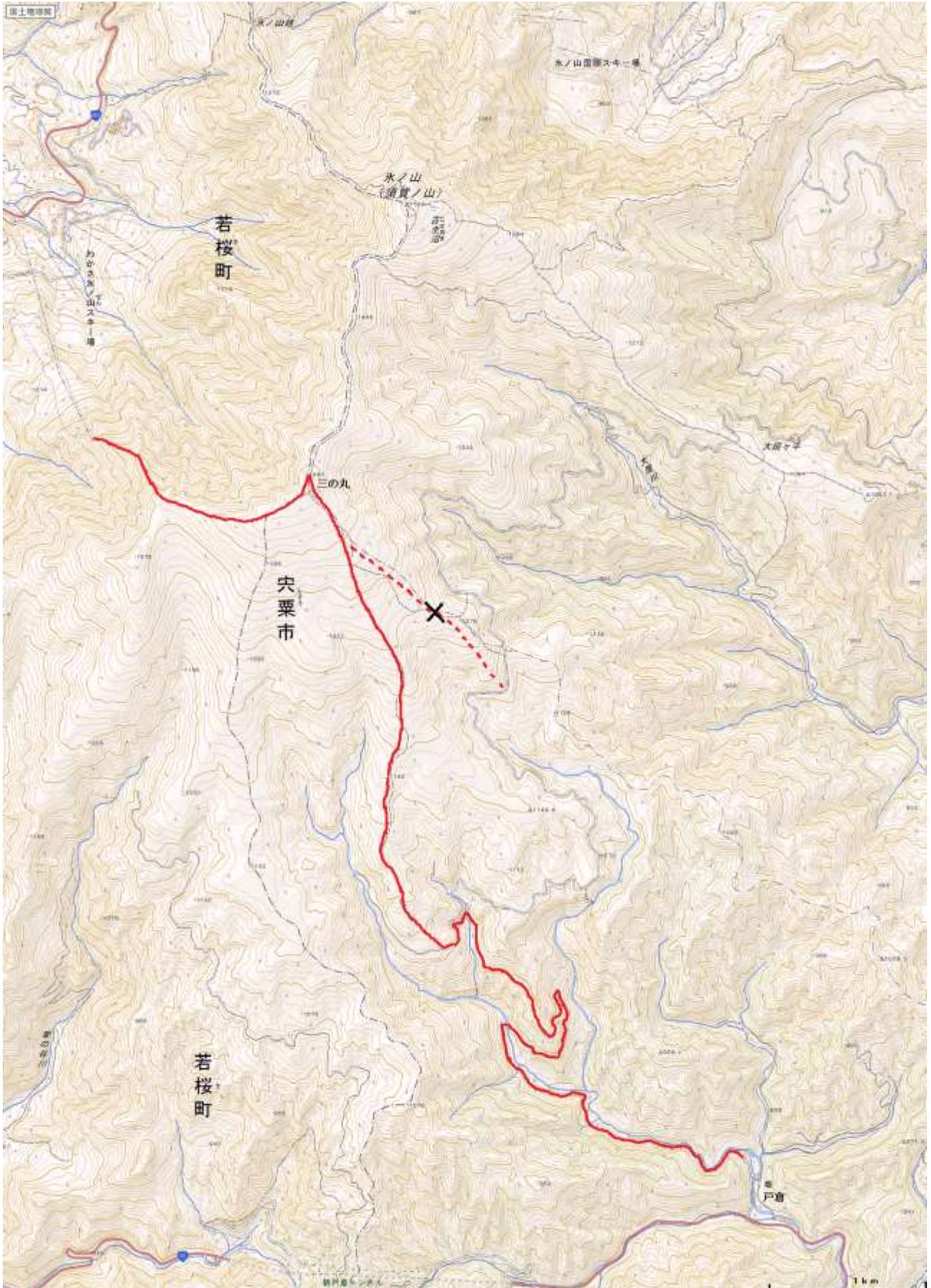
- ① 氷ノ山国際スキー場～東尾根～山頂往復 5～6時間 (降りには避難小屋手前から北側の急斜面に滑り込むのもよい。)
- ② 氷ノ山国際スキー場～東尾根～山頂～氷ノ山越～ハチ高原スキー場 (ブン回しコース) 7～8時間
- ③ 若桜氷ノ山スキー場～三の丸～山頂往復 4～5時間
- ④ 若桜氷ノ山スキー場～三の丸～山頂～氷ノ山越～若桜氷ノ山スキー場 約5時間

若桜～氷ノ山越の南側ルートは2012年3月下旬の岡山県大会時の登山ルート。下降路として使うにはやや困難。新雪時であれば快適に滑降できるかもしれないが、その時は逆に雪崩の心配もあるだろう。うまく滑降できるとしたら、適度な量の新雪時のみか。

ぶん回しコース途中から若桜側への下降ルートとしては氷ノ山越からが無難。樹林帯の急斜面であるので、雪質がよくないときには斜滑降&キックターンか横滑りで切り抜けることになるだろう。ただその距離は短く、あとは除雪されていない国道482号線に向けて快適な滑降が待っている。

三の丸北側の谷沿いルートはワサビ谷ルートと呼ばれ、残雪期にはいいルートだ。ただし時期が遅いと谷の下部には雪がなくなる。(2015年4月12日に富永先生とトレースした際は、1000mあたりで雪がなくなり、ゲレンデに出る手前の900m付近まで20分ほどの歩きとなった。それでもゲレンデにはなんとか最後まで雪が残っており、770mのボトムまで滑走することができた。)

27-2. 氷ノ山 (三の丸～戸倉)



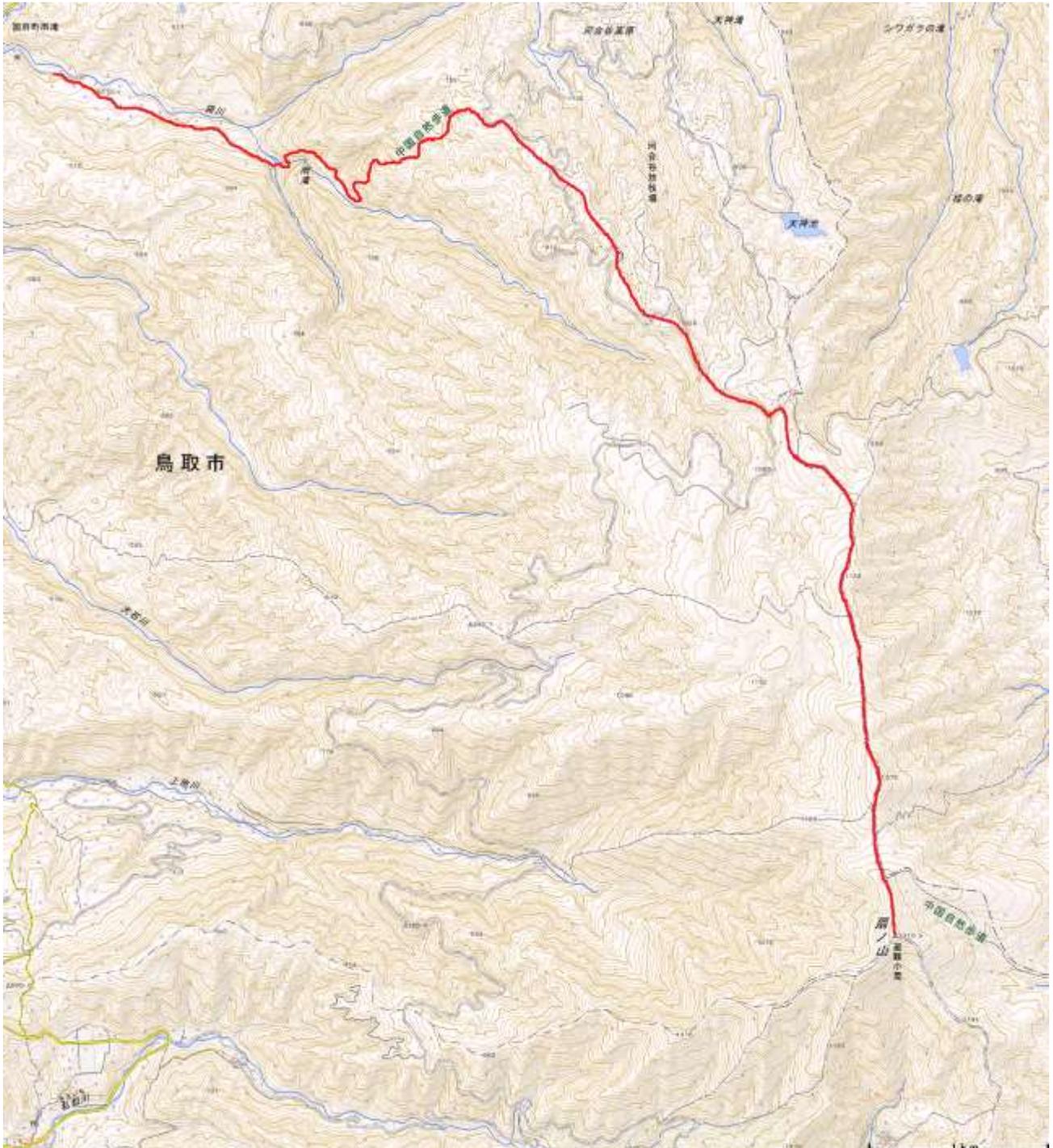
(縮尺 約1/35,000)

若桜氷ノ山スキー場～三の丸（＋氷ノ山往復）～戸倉 約 5 時間（＋2 時間）

山の反対側への縦走ルートとなるため、前もって下山地の戸倉に車を回しておくとも便利である。若桜氷ノ山スキー場～戸倉（堀）間は、国道 482 号線&29 号線経由で片道約 20km、往復 1 時間ほどで 1 台の車を置いて戻れるだろう。一方、兵庫県側になると氷ノ山国際スキー場の下から戸倉まではかなり距離があり、しかも氷ノ山国際スキー場のリフトでは到達高度も稼げないので、戸倉ツアーを実施するなら断然若桜側がよい。（なお、三の丸からの滑降方向に注意が必要。点々方向に降ると、後の林道歩きが大変）

板の谷コースと呼ばれるこのコース以外にも、兵庫・鳥取県境尾根沿いなど、手頃なルートがありそうだが、新戸倉トンネルに並行する旧国道に降りるにはどうがいいだろうか？林道を利用すればいいだろうか？

28. 扇ノ山



（縮尺 約 1 / 35,000）

扇ノ山に登ったのは 2001 年 2 月中旬に清原先生と訪れた 1 回きり。雨滝のどのあたりから歩き始めたのか定かな記憶はないが、実に長大なルートで、雨滝から登り 7 時間少々、降り 3 時間少々かかった記録が残っている。傾斜も緩いので、ステップ付きの板に革靴で登ったが、ただその分、降りでは清原先生に少々おいて行かれた。